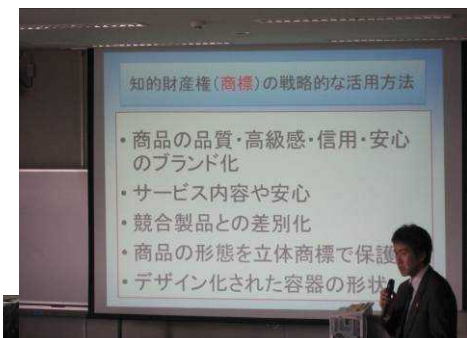


学校番号	商 0 1		
学校名	<b>栃木県立那須清峰高等学校</b>	担当教員/ 教官名	松平 祥江
学校情報	所在地：栃木県那須塩原市下永田 6 - 4 TEL：0287-36-1155、FAX：0287-37-2458、URL：http://www.tochigi-edu.ed.jp/nasuseiho/		

ねらい (○印)	<input checked="" type="radio"/> a) 知財の重要性 <input checked="" type="radio"/> b) 法制度・出願 <input checked="" type="radio"/> c) 課題解決 (創造性開発・課題研究・商品開発等)
関連法 (○印)	<input checked="" type="radio"/> d) 地域との連携活動 e) 人材育成 (学習意欲向上、意識変化等) f) 学校組織・運営体制
	a) 特許・実用 <input checked="" type="radio"/> b) 意匠 <input checked="" type="radio"/> c) 商標 d) 著作権 e) 種苗 f) その他 ( )

タイトル 目的・目標要約	<b>学科間、産学官連携を活用した知的財産権学習</b>
目的・目標 ・背景	<p>(目的・目標) 知的財産に関する基礎的な知識を、地域に根ざした商品開発や実習等を通して習得する。 工業科や産学官との連携を図りながら幅広い活動を行う。</p> <p>(取組の背景) 地元企業や商工会などと連携し、地域に密着した学校を目指し、商業科としての活動の場を広げたい。</p>
活動の経過 (知財との関連)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 産業財産権についての意義、重要性についての学習</li> <li>・ 弁理士による知的財産権に関する講話</li> <li>・ 地域産業の環境調査</li> <li>・ 販売促進方法の研究 (ネーミング・ロゴマーク・POP 広告作成)</li> <li>・ 知的財産権に関する模擬的な出願書類の作成実習</li> <li>・ IPDL 検索実習</li> <li>・ 知的財産管理技能検定の学習</li> <li>・ アイデアコンテスト参加 那須塩原市主催 地域活性化コンテスト 奨励賞受賞</li> <li>・ 「ふれあい活動高校生のつどい」商業科活動発表</li> <li>・ 学習成果のまとめ・レポート作成 校内発表</li> </ul>
成果 ・まとめ ・気づき ・反省 ・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今年度は、商業科全学年に知的財産権に関する学習の機会を設けようと心掛け、弁理士による講話の拝聴など、1・2年生にもできるだけ多くの時間をあてた。外部講師による講話を聴く機会が、1・2年生には少ないので、興味関心を持って集中して取り組んでいた。</li> <li>・ 新学習指導要領により、中学校で知的財産に関する内容を学習してくる生徒が入学してくることになり、高校でも「商品開発」など知的財産権に関する内容を多く含む科目が新設されるので、今後は内容を見極めながら、さらに深く発展した学習に取り組めるよう工夫していきたい。</li> <li>・ 学校外の活動を行うことによって、生徒達は数多くの刺激を受けることができた。コンテストや活動発表など情報を発信することで、さまざまな事を学び、反省、改善をしてさらに工夫を凝らすなど、実践的能力を身に付けた。また、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力の重要性にも改めて気づいた。周囲からの評価が、生徒達の自信につながり、意欲関心の向上となった。</li> </ul>

「本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。」



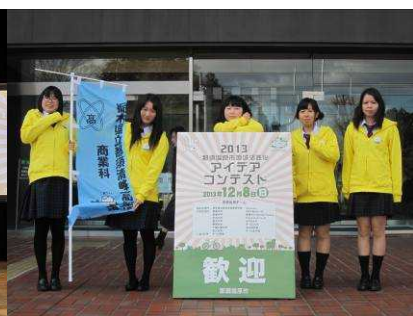
・専門有知識者によるPOP広告作成指導



・弁理士による知的財産権講話  
I P D L 検索指導



・建設工学科との連携 看板製作



・アンケート調査活動・コンテスト参加



・産学官連携事業      ・オリジナルキャラクター制作



・知的財産に関する内容を情報発信

学校番号	商 0 2		
学校名	<b>群馬県立前橋商業高等学校</b>	担当教員/ 教官名	諸星 尚紀 (他 8 名)
学校情報	所在地：群馬県前橋市南町 4 丁目 35-1 TEL：027-221-4486、FAX：027-243-2175、URL：http://www.maesho-hs.gsn.ed.jp/		

ねらい (○印)	<input checked="" type="radio"/> a) 知財の重要性	<input type="radio"/> b) 法制度・出願	<input checked="" type="radio"/> c) 課題解決 (創造性開発・課題研究・商品開発等)
関連法 (○印)	<input checked="" type="radio"/> a) 特許・実用	<input type="radio"/> b) 意匠	<input checked="" type="radio"/> c) 商標
	<input type="radio"/> d) 地域との連携活動	<input checked="" type="radio"/> e) 人材育成 (学習意欲向上、意識変化等)	<input type="radio"/> f) 学校組織・運営体制
	<input type="radio"/> d) 著作権	<input type="radio"/> e) 種苗	<input type="radio"/> f) その他 ( )

タイトル 目的・目標要約	<b>地域社会と連携した新商品開発を通して、知的財産権を学習する</b>
目的・目標 ・背景	<p>(目的・目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>産業財産権標準テキストを活用し、知的財産権の理解と知識を深めさせる。</li> <li>商標登録、特許等の出願を念頭におき、創造力と実践力および活用力を身に付けさせる。</li> <li>グループ学習を通し、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を身に付けさせる。</li> <li>地元企業との連携した新商品開発を通して、知的財産権を意識させ、起業家精神を育む。</li> </ul> <p>(取組の背景)</p> <p>起業実践 (学校設定科目) がビジネス総合科 5 クラスでの展開となり、今年度で 5 年目となった。昨年度も新商品開発に知的財産に関する教育を取り入れてきたが、非常に効果的であったと感じている。今年度も、これまでどおり知的財産教育を継続して取り入れることにより授業の幅を広げるとともに、より一層内容の充実を図っていきたいと考えた。</p>
活動の経過 (知財との関連)	<p>○ガイダンス</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>これまで取り組んできた内容を伝え、知的財産の存在を知る。</li> </ul> <p>○KJ法・ブレインストーミングの実習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>グループ学習により生徒同士のコミュニケーションを取らせ、今後の授業展開を円滑にするために行った。</li> <li>プレゼンテーション能力を身につけさせるために、模造紙を使用した発表とプレゼンテーションソフトを用いた発表を行った。</li> </ul> <p>○講義と実習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本校の卒業生が開発した「爽ふるん」に類似した商品が発売されていることを例にとり、知的財産権の重要性を身近に感じさせ学ばせることができた。知的財産権について大変興味を持って取り組んでいた。</li> <li>産業財産権標準テキストについては総合編と商標編を使用した。</li> <li>知的財産に関して、テキスト等では補いきれない今起きている状況をテレビ番組や無料動画サイト等を利用し補足した。</li> </ul> <p>○商品開発</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>企業 (セーブオン) の方に来ていただき、商品開発の説明をしていただいた。</li> <li>企業と協力して、新商品開発を行い、商品名やパッケージ選考について知的財産権の実情にふれることができたことは大きな収穫であった。</li> <li>クラス単位での新商品開発を行った。グループワークで新商品案の検討および試作を行い、販売促進の方法を考えさせた。その際に、意匠権や商標権について意識付けを行わせた。</li> <li>新商品開発と関連し、商標 (ロゴマーク) を作成し、クラス内での発表を行った。</li> </ul>

<p><b>成果</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まとめ</li> <li>・気づき</li> <li>・反省</li> <li>・課題</li> </ul>	<p>起業実践（学校設定科目）について、より一層内容の充実を図る必要性を感じつつ日々試行錯誤しながらの授業展開であった。創造力や実践力・コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力等を育成することが本科目の目標であり、その手段として主に新商品開発を取り入れている。グループワークやプレゼンテーション・販売実習等、新商品開発の過程における様々な経験や知的財産権の学習は、進路先でもきっと役に立つものであると思う。この事業により、テキストやDVD資料を用いられたこと、知的財産講義やIPDL実習を行えたこと等は、知的財産の知識を深めるだけでなく、授業の幅を広げ生徒の様々な能力を高めるうえで非常に有効なものであったと思う。</p> <p>毎週行った会議で各クラスの進度の調整をすることや、報告・相談をすることが授業を展開する上で大変役に立った。来年度に向けて指導体制を整えて、より充実したものにしたいと思う。</p>
---	---

「本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。」

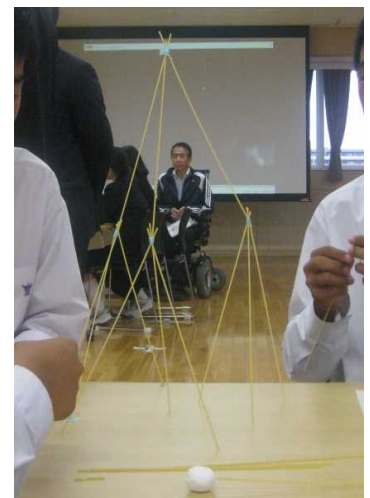


校舎写真



活動風景写真

模擬商品開発（プレスト・KJ法）の様子！



活動風景写真

創造的活動、グループワークが問われる「マシュマロチャレンジ」



活動風景写真

模擬商品開発（プレゼンテーション）の様子！



開発商品写真

がっつりがテーマのオムナポ！

学校番号	商 0 3		
学校名	<b>神奈川県立商工高等学校</b>	担当教員/ 教官名	長澤 利恵子
学校情報	所在地：神奈川県保土ヶ谷区今井町 7 4 3 TEL：045-353-0914、FAX：045-353-1565、URL：http://www.shoko-h.pen-kanagawa.ed.jp		

ねらい (○印)	<input checked="" type="radio"/> a) 知財の重要性	<input type="radio"/> b) 法制度・出願	<input checked="" type="radio"/> c) 課題解決 (創造性開発・課題研究・商品開発等)
関連法 (○印)	<input checked="" type="radio"/> a) 特許・実用	<input type="radio"/> b) 意匠	<input checked="" type="radio"/> c) 商標
	<input type="radio"/> d) 地域との連携活動	<input type="radio"/> e) 人材育成 (学習意欲向上、意識変化等)	<input type="radio"/> f) 学校組織・運営体制
	<input type="radio"/> d) 著作権	<input type="radio"/> e) 種苗	<input type="radio"/> f) その他 ( )

タイトル 目的・目標要約	<b>知的財産権学習の導入</b>
目的・ 目標 ・背景	<p>(目的・目標) 商品開発等実習や企業等外部組織との連携をとおして、知的財産権教育を導入する。</p> <p>(取組の背景) 学習指導要領が改正され、商業科では「商品開発」という新科目が設置された。本校では平成 27 年度より実施する予定だが、本校で浸透していない知的財産教育を生徒・教員とも理解する必要があると判断し、本開発事業を申請した。</p>
活動の 経過 (知財と の関連)	<p>○マーケティングの授業 産業財産権標準テキストを使用し、産業財産権についての知識を身に付けさせた。チーム学習をとおして、工業科と連携し、製品を作ることにより、工業製品のデザイン、意匠権等の知的財産権について学んだ。日本弁理士会関東支部の外部講師による講演会の実施。</p> <p>○課題研究 サークルKサンクスと共同で地域の特色を生かした商品開発に取り組んだ。産業財産権標準テキストを使い商標権についての学習をした。ファミリーマートと共同でおにぎりを開発中。ファミリーマートによる知的財産権の講義を実施した。</p> <p>○商業部 (部活動) 地域の和菓子店と共同で和菓子の開発を行った。その際に焼印を作成した。IPDLを使用して、商標権について学習した。工場見学等をとおして、商品開発やネーミングについて学んだ。開発した商品は文化祭や産業教育フェアで販売した。研究指定実施校の指宿市立指宿商業高校に学校訪問し、知的財産について学び、これからの方向性について考察した。</p> <p>○教員向け研修 新学習指導要領における知的財産権について岡山県立倉敷鷺羽高校の先生を外部講師として招へいし、講演会を行った。本開発事業の初期の岡山東商業高校の取組みを話していただき、商標登録について研修した。研究指定実施校である群馬県立前橋商業高校を訪問し、知的財産権についての指導方法を教員が学ぶことができた。</p>
成果 ・まとめ ・気づき ・反省 ・課題	<p>今年度初めて開発事業に取り組んだので、試行錯誤の連続であった。</p> <p>机上の学習だけでは学びきれない知的財産権を実習や産業界との連携で生徒に身近に感じさせられる体験ができた。</p> <p>来年度はもっと多くの生徒に体験させたいと思う。また、校内の協力体制を組織化し、整えていきたい。</p>

「本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。」



商業部の活動はタウンニュースに掲載されました。  
(神奈川県横浜市保土ヶ谷区)

コンビニエンスストアとの共同商品開発



工業（機械）科と共同開発

サークルKサンクスとの共同開発品  
TVKで紹介されました。

指宿商業高校での知的財産権に関する交流会

※本資料内の写真等許諾が必要なものにつきましては、権利者の許諾を得ていることを申し添えます。

### 知的財産権教育の導入について

知的財産に関する創造力・実践力・活用力開発事業に初めて取組み、最初は校内の理解をなかなか得ることができず、試行錯誤であったが、コンビニエンスストアとの連携で、商品が販売されると、周囲の理解を得ることができて、支援体制も整いつつある。

コンビニエンスストアとの話は予定外であり、実施計画にないものもあったが、良い方向の計画転換であった。

本事業に参加して、机上ではなかなか理解しにくい知的財産権について生徒に体験をとおして理解させることができた。

12月に課題研究発表会という場を設け、成果を発表させることにより、下級生にも興味を持たせることができた。

来年度以降も企業との連携は続けていきたい。



学校番号	商04	平成25年度 実践事例報告書様式4	
学校名	<b>新潟県立新発田商業高等学校</b>	担当教員/ 教官名	藤田 健
学校情報	所在地：新潟県新発田市板敷521-1 TEL：0254-26-1388、FAX：0254-26-8547、URL：http://www.shibatash-h.nein.ed.jp		

ねらい○印)	a) 知財の重要性 b) 法制度・出願 <b>c)</b> 課題解決（創造性開発・課題研究・商品開発等） <b>d)</b> 地域との連携活動 e) 人材育成（学習意欲向上、意識変化等） f) 学校組織・運営体制
関連法（○印）	a) 特許・実用 <b>b)</b> 意匠 <b>c)</b> 商標 d) 著作権 e) 種苗 f) その他（ ）

タイトル 目的・目標要約	<b>企業や地域との連携による商品の企画・開発と知的財産学習の実践</b>
目的・目標 ・背景	<p>（目的・目標）</p> <p>商品の企画・開発をととしてプレゼンテーションや販売実習などの体験的学習を実践し、創造力やコミュニケーション能力を育成するとともに、知的財産権について体系的に学び、権利登録までの流れを学習することで、自分たちが創造したものについて知的財産権の取得や活用方法を身につける。</p> <p>（取組の背景）</p> <p>知的財産権については授業の中で知識として学習はしているが、登録や活用の方法など具体的な内容まで踏み込んだ学習はしていなかった。また以前より商品開発・販売実習には取り組んでいたが、知的財産権を意識して実施してはならず、権利の侵害などにも無頓着で知識を活用してはいなかった。</p>
活動の経過 （知財との関連）	<p>（導入）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>商品開発の基本的な考え方やアイデアの文章化、個人発表形式によるプレゼンテーションスキルの育成。</li> <li>弁理士による知的財産権の基礎知識について講義。</li> </ul> <p>（展開）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>立案した企画の実行 <ol style="list-style-type: none"> <li>企業や専門学校および自治体にアポイントメントを取り、企画のプレゼンテーションを行う。</li> <li>企業・学校・自治体との連携・協力による商品の開発。 <ul style="list-style-type: none"> <li>開発した企画と連携企業・学校 <ol style="list-style-type: none"> <li>さくらんぼプリン：パティスリー ロレーヌ（新発田市）</li> <li>スマートフォン用 時計アプリ：新潟情報専門学校、新発田市観光振興課</li> <li>学校独自キャラクター：デザインスタジオ ショッカー（新潟市）</li> <li>旅行プラン：株式会社 新潟交通、福島県立喜多方桐桜高等学校</li> <li>イベント参戦のための雑煮：イタリア料理 ラ ジェンマ（新発田市）</li> </ol> </li> </ul></li></ol> </li> <li>開発した商品の販売実習（さくらんぼプリン・雑煮）。 <ul style="list-style-type: none"> <li>阿賀北食 King、工業高校フェスタ、新発田うまいもの博、新発田農業高校文化祭、しばた全国雑煮合戦</li> </ul> </li> <li>メディアによる取材 <ul style="list-style-type: none"> <li>新聞：さくらんぼプリン（新潟日報、週間 WEEK（週刊誌））</li> <li>時計アプリ（MSN 産経ニュース、新潟日報、新発田市広報）・雑煮（新潟日報）</li> <li>TV：旅行プラン（UX 新潟テレビ 21：特集）・雑煮（UX 新潟テレビ 21：ニュース）</li> </ul> </li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>発明協会アドバイザーによる、商標登録の出願についての講義。</li> </ul> <p>（まとめ）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>全校に向けた成果発表会の実施。</li> <li>今年度の総括。（次年度の引き継ぎ事項の検討）</li> </ul>
成果 ・まとめ ・気づき ・反省 ・課題	<p>本校は平成12年より情報処理科においてスチューデント・カンパニー・プログラム（SCP）を実施しており、模擬株式会社を設立し生産・販売・決算・株主総会に至るまでの一連の活動を行ってきた。今年度より課題研究の中に商品開発を開設し、今までのノウハウを活かし商品の企画・開発を実施、販売実習までをおこなった。また、外部講師によって創造物が知財という権利と結びつくことを、身近な具体例を取り上げ説明されたことにより理解力が深まった。自分たちが開発した商品が販売によって利益を得るだけでなく、知財として活用できるということに非常に興味を持っていた。次年度は商標や意匠の登録までを視野に入れた取り組みにしていきたい。</p>



写真1. 知的財産に関する講義

Project Name: 新発田の特産物を使用したチョコレート開発・販売		Year	Location																		
Project Leader: 新発田商業高校、3年級経営研究(商品開発) 芝SHOW		2018	新発田																		
<p><b>■企画概要</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 新発田の特産物が知られていない。誰でも作れる、誰でも楽しめるものを作りたい。</li> <li>② 高校で学んだ知識を実践する。</li> </ul> <p><b>■企画-ねらい-目的</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 代表的お土産の製作(新発田の特産物)につなげる。</li> <li>② 社会とのつながり。</li> <li>③ 企業と連携、活動を行うことにより実社会に貢献する。</li> </ul> <p><b>■予定素材</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① チョコレート(お土産用)</li> <li>② 原材料(新発田の特産物)</li> <li>③ パッケージ(新発田商業オリジナルキャラクター)等</li> </ul> <p><b>※</b> 現在、新発田ゆるキャラ「サクランぼプリン」のデザインを決定した企画も開発中</p>																					
<p><b>■企画内容 (コンセプト)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① チョコレートに新発田の特産物を使用し、お土産として製作。</li> <li>② パッケージに新発田商業キャラを使用(包装紙、箱など)。</li> <li>③ H.P.、ポスターの作成(広告)。</li> <li>④ 市のイベント、文化祭にて販売。</li> </ul> <p><b>■特産物の例</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 餅屋(イチゴ)</li> <li>・ 芋(大根(枝豆))</li> <li>・ 米(赤いこしひかり)</li> <li>・ リンゴ(蜜)</li> <li>・ お湯(湯花)</li> <li>・ 市の特産、特産、特産品</li> </ul> <p>① チョコレート使用 ② 箱、パッケージ ③ チョコレート使用 ④ 市の特産、特産品</p>																					
<p><b>■日程</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>10月</th> <th>11月</th> <th>12月</th> <th>1月</th> <th>2月</th> <th>3月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>企画決定</td> <td>特産物調査、企業に協力を依頼</td> <td>パッケージデザイン、原材料の調達</td> <td>試作、販売場所の決定</td> <td>パッケージ決定</td> <td>新発田産物展(10月26日)その他イベントで販売</td> </tr> <tr> <td>①(デザイン決定)</td> <td>②(デザイン決定)</td> <td>③(デザイン決定)</td> <td>④(デザイン決定)</td> <td>⑤(デザイン決定)</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p><b>■その他、実施計画</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 販売先(の決定)</li> <li>② 新聞の掲載(企画-新聞に聞かせること)</li> <li>③ TV-ラジオの取材(企画-新聞に聞かせること)</li> </ul> <p><b>■実施結果発表</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 新発田市、新発田の特産物の認知度UP</li> <li>② 新発田商業、新発田のゆるキャラの認知度UP</li> <li>③ チョコレート商品の種類増加</li> </ul>				10月	11月	12月	1月	2月	3月	企画決定	特産物調査、企業に協力を依頼	パッケージデザイン、原材料の調達	試作、販売場所の決定	パッケージ決定	新発田産物展(10月26日)その他イベントで販売	①(デザイン決定)	②(デザイン決定)	③(デザイン決定)	④(デザイン決定)	⑤(デザイン決定)	
10月	11月	12月	1月	2月	3月																
企画決定	特産物調査、企業に協力を依頼	パッケージデザイン、原材料の調達	試作、販売場所の決定	パッケージ決定	新発田産物展(10月26日)その他イベントで販売																
①(デザイン決定)	②(デザイン決定)	③(デザイン決定)	④(デザイン決定)	⑤(デザイン決定)																	

図1. Planning Memo (企画書) の活用

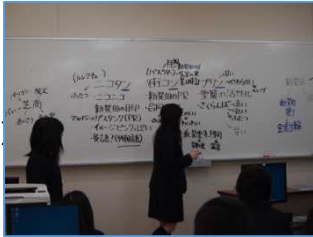


写真2. 授業風景  
(企画アイデアの創出)

写真3. 販売実習  
(さくらんぼプリン)

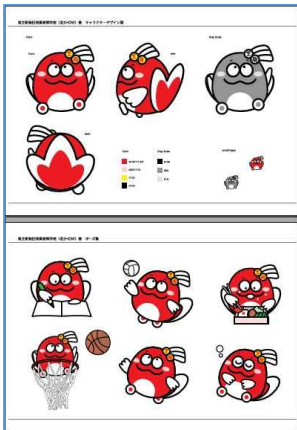


(アプリ用写真撮影)

(時計アプリ「芝 Time」)



写真4. 商品開発



← (キャラクター原画)

↓ (ぬいぐるみ)



写真5. 商品開発



↑ (喜多方桐桜高校 打ち合わせ)



写真6. 商品開発



写真7. 商標権に関する講義



写真8. 全校生徒に向けた成果発表会

「本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。」



学校番号	商05	平成25年度 実践事例報告書様式4	
学校名	<b>福井県立福井商業高等学校</b>	担当教員/ 教官名	伊東 輝晃
学校情報	所在地：福井県福井市乾徳4-8-19 TEL：0776-204-5180、FAX：0776-24-5181、URL：http://www.fukusho-ch.ed.jp		

ねらい (○印)	<input checked="" type="radio"/> a) 知財の重要性   b) 法制度・出願 <input checked="" type="radio"/> c) 課題解決 (創造性開発・課題研究・商品開発等)
関連法 (○印)	a) 特許・実用   b) 意匠 <input checked="" type="radio"/> c) 商標   d) 著作権   e) 種苗   f) その他 (   )

タイトル 目的・目標要約	<b>プライベートブランドと地域団体商標を学ぶ</b>
目的・目標 ・背景	<p>(目的・目標) 知的財産権に関して、地元企業や各種団体が課題にどう取り組んでいるかを講演等から学ぶ。企業訪問やフィールドワークを通して、助言指導を受けながら課題解決策を探っていく。生徒自らの気づきを掘り起こして、知的好奇心をより強く喚起する知財教育を目指す。</p> <p>(取組の背景) 県ブランド営業課や提携企業の助言指導を受けて、校外での学習活動に取り組む。体験型・課題解決学習を通じて、商業教育がより深化できるよう努めていく。</p>
活動の経過 (知財との関連)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 商業科目に関わる知財活用の実例を教材とするとともに、発想を豊かにする学習を取り入れて、生徒が自ら創意工夫できる下地をつくる。</li> <li>・ 行政・産業界や学識経験者から本校の取組みへの助言指導を受けたり、知財に関する教員研修を行ったりして、授業改善に努める。</li> <li>・ 地元企業と提携して商品開発等を行い、校内外での販売実習も行う。 マーケティング手法を取り入れて販売実績を分析し、開発商品の改良を図る。</li> <li>・ 先進的な取組みをしている他校へ訪問・聴取・調査を行い、適宜情報交換を進める。</li> </ul>
成果 ・まとめ ・気づき ・反省 ・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 商品開発については、昨年度は企画提案から試作品制作依頼にとどまってきた。今年度は、販促グッズ制作や販売実習まで拡げることができた。一定期間継続して販売実習したため、販売状況を提携企業とともに分析して、マーケティング手法を取り入れて工夫改善をめざす活動ができた。昨年度の開発商品のバージョンアップは年度末には整う予定である。</li> <li>・ 開発商品の商談会参加や商業高校フードグランプリコンテストに出品したり、校内外での学習内容をパネル展示発表したりするなど積極的に活動することができた。多方面から励ましの声や意見を聞くことができ、生徒の学習意欲や関心は大いに高まった。気づいた課題を解決しようと生徒自らが創意工夫したり協議したりするようになり、自発的に学びを深める授業を進めることができた。</li> <li>・ 地域団体商標やプライベートブランドを参考に、開発した本校応援キャラクター「ACEくん」を活用した販売促進活動を継続して行ったところ、手応えを十分感じる事ができた。</li> <li>・ キャラクターイメージが全校で周知徹底できるよう工夫を求める声もあり、意見集約が当面の課題である。また、食料品以外の商品開発や知財の権利化を求める意見もあり、より進んだデザイン学習ができるよう授業改善を図りたい。</li> </ul>

「本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。」



プリンやっちゃ & 梅サイダー



いーもんクッキー販売実習



福よかそば調理例



効果的な手書きPOP広告



福よかそば第2弾に向けた工場見学



福よかそば第1弾



商談会を経て試食販売を行った



産業教育フェアでのパネル展示



始めて行った販売実習

(特記すべき取組と成果) 「よーけ食べてもいーもんクッキー」の学習活動について

平成25年度末に提携企業の助言指導を受け「いーもんクッキー」が完成した。自分へのご褒美のコンセプトの下、地元産「とみつ金時」さつま芋あんを包んだソフトクッキー6枚1箱680円はお取り寄せスイーツとして上々の滑り出しであった。バター配合を調整したり、真空包装にしたりして賞味期限を延ばすことで、生産量や販売地域の自由度を拡げる工夫を行った。8月に商業高校対象のフードグランプリに出品して受けた審査結果から、パッケージやクッキーサイズなどに改良の余地があることが判明し、年度末までにバージョンアップする予定である。提携企業の主力商品と重複せず、提携企業のブランドイメージを損なわずに販売実績を重ねていきたいと考えて、県産業会館「ふくい味の祭典」にて、県菓子工業組合青年部ブースでの販売実習に取り組んだ。その様子が上にある中上段の写真である。バラ売りができるようにシール貼付作業に授業で取り組んだ後で、目標数量を上回る販売を達成することができた。販売ノウハウを実地に学び、注目の集まる中でお客様からの励ましの声を受けて、生徒は大いに成長できた。

今後は、販促グッズの開発や販売実習を積み重ねて、コミュニケーション能力とバイタリティを求められる販売員としても活躍できる人材育成に努めたいと考えている。



学校番号	商06	平成25年度 実践事例報告書様式4	
学校名	<b>甲府市立甲府商業高等学校</b>	担当教員/ 教官名	秋山 盛富
学校情報	所在地：山梨県甲府市上今井町300 TEL：055-241-7511、FAX：055-241-7512、URL：http://www.kchs.city.kofu.yamanashi.jp		

ねらい (○印)	<input checked="" type="radio"/> a) 知財の重要性	<input type="radio"/> b) 法制度・出願	<input checked="" type="radio"/> c) 課題解決 (創造性開発・課題研究・商品開発等)
関連法 (○印)	<input checked="" type="radio"/> a) 特許・実用	<input checked="" type="radio"/> b) 意匠	<input checked="" type="radio"/> c) 商標
	<input type="radio"/> d) 地域との連携活動	<input type="radio"/> e) 人材育成 (学習意欲向上、意識変化等)	<input type="radio"/> f) 学校組織・運営体制
	<input type="radio"/> d) 著作権	<input type="radio"/> e) 種苗	<input type="radio"/> f) その他 ( )

タイトル 目的・目標要約	<b>本校における知財学習の取り組みのさらなる定着と拡大</b>
目的・目標・背景	本校は平成22年度から本事業に参加させていただいております。これまでに第1学年のビジネス基礎と部活動において知財教育について取り組んできました。平成24年度は特別授業や講演会などの実施により学校内における知財教育の機運が高まったと感じています。これを機に、平成25年度はさらに授業での知財教育の取り組みを拡大させたいと考えています。具体的には課題研究や学校設定科目である商品開発において、通年で知財を扱う授業が新たに実施できることとなりました。これらを踏まえ、平成25年度は本校における知財教育の取り組みのさらなる定着と拡大を目標とします。
活動の経過 (知財との関連)	<u>授業における活動 (商品開発・課題研究)</u> 1. 産業財産権標準テキストを使って産業財産権について理解させる。 2. 特許庁及び東京税関を見学させて知的財産 (権) について知識ならびに学ぼうとする意欲を高めさせる。 3. 意匠 (権) について学習を深めさせるため、デザインパテントコンテストに応募させる。 4. 商品開発の手順について理解させる。 5. 外部講師を活用してデザインについて知識や理解を深めさせる。※商品開発選択生徒のみ <u>部活動における活動 (マーケティング部)</u> 1. 知財教育の紹介のためにこれまでの成果を発表させる。 2. これまでの成果物を使って学校外部と交流を行う。
成果 ・まとめ ・気づき ・反省 ・課題	知財に関する知識を修得させるに当たっての着眼点は、生徒に理解しやすくするため、産業財産権標準テキストを使って系統ごとに学習すること、意欲的に学習に取り組むことができるようにするため、実例を取り上げることに重きを置いて指導しました。 授業「商品開発」において1学期に産業財産権の概要について学習したことで、夏期休業中の特許庁および東京税関の見学会がより学習を深めるものになりました。授業ではデザインパテントコンテストの応募や特別講義の受講、部活動では成果展示発表会への参加や小学生との交流をとおして概ね目標は達成されました。 意匠を言葉で表現させる授業を実施したときは、視覚で形態を捉えて思考し、書くという作業で表現するという活動をさせました。なかなか難しい活動ではありましたが、言語活動の充実という高等学校学習指導要領の方針を達成するためにも知財が有効なツールとなることを目の当たりにしました。以前に「日頃の教育活動においても知財は有効なツールになる」という言葉を聞きました。これからも研修を積み、知財を深く学んで生徒に還元していくことはもちろんですが、日常的に知財を意識した教育活動が実施できればと考えています。

「本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。」

KJ法・マインドマップを実践



部活動におけるアイデア創造活動

大審判廷見学の様子！



特許庁見学

山梨県工業技術センターに講師を依頼



特別講義

偶然職員室にあったマグカップがヒントになり、教材化しました。創造力・表現力のトレーニングに特に効果がありました。

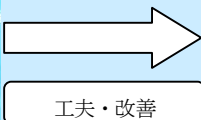
普通のU型のみ、4本の指を入れられるの2"持ちやすいし、見た目も可愛い。

部活動における取組について

昨年度から意匠・商標・著作権の学習の一環として部活動においてご当地かるたの作成に取り組みました。山梨県内の名所や名物などを地域の偏りがでないように項目を選定し、それらを調べて読み札と絵札を作成しました。当初は市販の名刺カードを使って校内で生産することを考えましたが、商品としての質を考えると校内の設備ではできないために企業と連携して作成しました。

この取組を成果展示発表会で展示・発表しました。創造の苦勞、そしてそれを発表できる機会や他校との交流をとおしてより学習を深めることができたと思います。

さらに、かるたの商品としての性格上、複数で行うということからコミュニケーションツールとしても活用しています。甲府市立大國小学校の協力を得て小学6年生を対象に高校生が実演を行いました。自ら開発したかるたで小学生に山梨県の魅力を伝えることができた達成感と、説明することの難しさを学ぶことができたと思います。創造活動のみならず創造物を活用した新たな学びの場を作ることができました。



成果展示発表会



小学生との交流

学校番号	商07	平成25年度 実践事例報告書様式4	
学校名	<b>山梨県立峡南高等学校</b>	担当教員/ 教官名	坂井 護明
学校情報	所在地：山梨県南巨摩郡身延町三沢 2417 TEL：0556-37-0686、FAX：0556-37-0213、URL：http://www.kyonanh.kai.ed.jp		

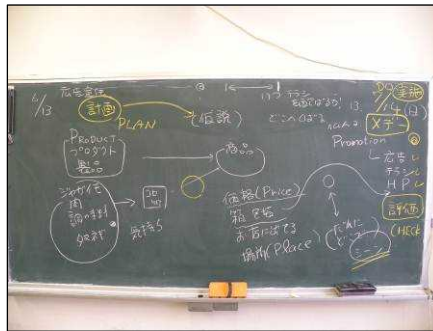
ねらい (○印)	<input checked="" type="radio"/> a) 知財の重要性	<input type="radio"/> b) 法制度・出願	<input checked="" type="radio"/> c) 課題解決 (創造性開発・課題研究・商品開発等)
関連法 (○印)	<input checked="" type="radio"/> a) 特許・実用	<input checked="" type="radio"/> b) 意匠	<input checked="" type="radio"/> c) 商標
	<input checked="" type="radio"/> d) 地域との連携活動	<input checked="" type="radio"/> e) 人材育成 (学習意欲向上、意識変化等)	<input checked="" type="radio"/> f) 学校組織・運営体制
	<input checked="" type="radio"/> a) 特許・実用	<input checked="" type="radio"/> b) 意匠	<input checked="" type="radio"/> c) 商標
	<input checked="" type="radio"/> d) 著作権	<input type="radio"/> e) 種苗	<input type="radio"/> f) その他 ( )

タイトル 目的・目標要約	<b>知的財産学習の導入により、職業人としてのスキルアップを目指す。</b>
目的・目標 ・背景	<p>(目的・目標) 知的財産教育の導入により、関連授業・他学科との連携を行い、職業人としてのスキルアップを目指す。</p> <p>(取組の背景) これまで、「目指せスペシャリスト事業」・「スーパー専門高校モデル事業」・「地域産業と歩む高校生スキルアップ実践事業」のもと、地域直売所との協力事業(新商品・イベントの企画)・他学科との連携(特色を活かした商品開発)など校内外での活動を取り組んできた。</p>
活動の経過 (知財との関連)	<p>①地域直売所との協力事業(情報ビジネス科2・3年生課題研究選択者) 7月14日(日)に地元大島農林産物直売所において「コロッケ祭り」を開催。身延・六郷・中富地域の直売所で販売されているコロッケを集めて販売活動を行う。事前準備として企画会議を開催(ブレインストーミング、KJ法)するとともに外部講師による講義を受ける。当日来場者に対してアンケートの実施及び販売実習をおこなう。 研究成果を山梨県生徒商業研究発表大会(最優秀賞)、関東地区高等学校生徒商業研究発表大会(優良賞)で発表。</p> <p>②他学科との連携(商業研究部) 8月11日(日)【ぴゅあ峡南：錫を使用したオリジナルコースター作成体験】、11月2日(土)・3日(日)【東京ビッグサイト：錫を使用したオリジナルコースター、キーホルダー作成体験、オリジナル和紙製品販売実習】、12月15日(土)・2月23日(日)【湯之奥金山博物館：シルバーアクセサリ作成体験、錫を使用したオリジナルコースター、キーホルダー作成体験】において校外活動を行う。</p>
成果 ・まとめ ・気づき ・反省 ・課題	<p>①これまでに学習した知的財産権についての知識・技術を活かして、地域直売所と連携をしイベントを成功させることができた。計画的に順序立てて会議の中で意見をまとめる手段としてブレインストーミング、KJ法は生徒も興味を持ち非常に効果的に行うことができた。また、地域直売所などへのプレゼンテーションについては初めての試みだったため、生徒も動揺していたが、回数を重ねるうちに堂々と自信を持って対応することができるようになった。</p> <p>②昨年までの取り組みで共通理解は出来ていたが、多くの試作品を作るようになった。デザインフェスタへの出展は、限られた時間・材料・場所をどう活用するか教員、生徒を交えた会議を数多くこなし、原材料から溶かして作品を作るという工程をパターン化することができた。</p>

「本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。」



外部講師講話①



外部講師講話②



紙漉き体験



直売所事前訪問



コロッケ祭り①



コロッケ祭り②

生徒作成POP

ぴゅあ峡南

湯之奥金山博物館



オリジナルコースター



オリジナルキーホルダー



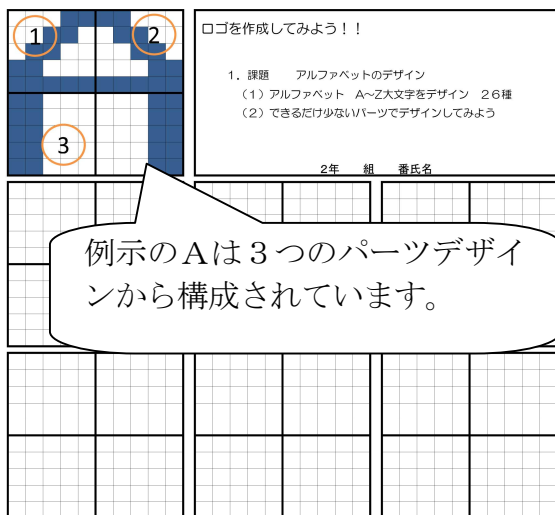
デザインフェスタ

学校番号	商 0 8		
学校名	<b>長野県諏訪実業高等学校</b>	担当教員/ 教官名	丸山 幹人
学校情報	所在地：長野県諏訪市清水 3丁目3663番地3 TEL：0266-52-0359、FAX：0266-57-2430、URL：http://www.nagano-c.ed.jp/sjt-hs/		

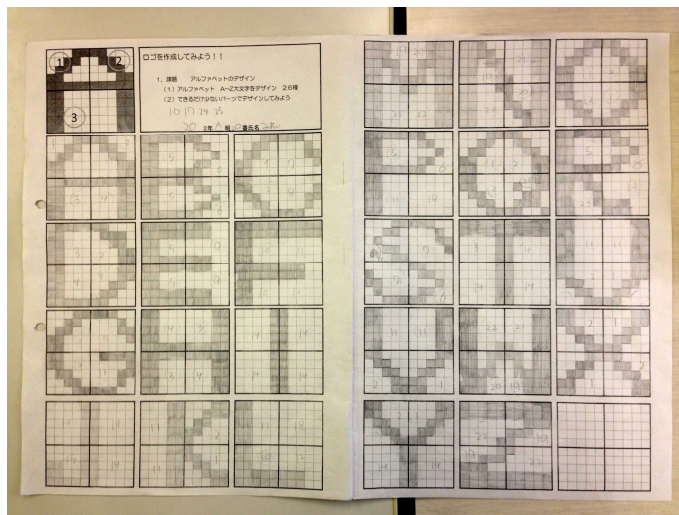
ねらい (○印)	a) 知財の重要性 b) 法制度・出願 <b>c)</b> 課題解決 (創造性開発・課題研究・商品開発等) <b>d)</b> 地域との連携活動 e) 人材育成 (学習意欲向上、意識変化等) f) 学校組織・運営体制
関連法 (○印)	a) 特許・実用 <b>b)</b> 意匠 <b>c)</b> 商標 d) 著作権 e) 種苗 f) その他 ( )

タイトル 目的・目標要約	<b>地域活性化に貢献できる商品開発と知的財産について考える</b>
目的・ 目標 ・背景	<p>(目的・目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>産業財産権標準テキストを活用し、知的財産権の理解と知識を深める</li> <li>イベントで試食アンケートを取ることで、自分たちのオリジナル商品の問題点を探り、地元企業と協力し、商品の品質改良等を行い新商品を提案する。</li> <li>手書きによるイラストやロゴをコンピュータグラフィック化 (CG化) できる技術の基礎知識を学び、自校にてキャラやロゴを制作・提案できるスキルを身に着ける。</li> </ul> <p>(取組の背景)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>販売実習においてオリジナル商品を開発、販売してきたが、特に知的財産を意識せずに行ってきた。そのため、自分たちのアイディアに権利があることや、知らず知らずのうちに権利の侵害をしてきていたことに気付かないままだった。今後の産業社会においては、知的財産権はとても重要なものとなり得る。自分の権利を守り、他人の権利を侵さないためにも、こういった学習が必要となった。</li> </ul>
活動の 経過 (知財と の関連)	<p>I 外部イベントでの試食アンケートをもとに新商品開発 諏実ショッピング 8名</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>8月の「デパートゆにと」(イベント)にて、サブレの試食アンケート実施</li> <li>アンケート結果の集計・分析</li> <li>商品の問題点を整理し改善点について検討中</li> </ol> <p>II 校内イベントでの取り組み</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>地元企業とのコラボ商品の販売</li> <li>地域の特産等活用した商品開発</li> <li>販売促進等での権利侵害を行わないよう事前学習及びイベントでの徹底</li> </ol>
成果 ・まとめ ・気づき ・反省 ・課題	<p>I 外部イベントでの試食アンケートをもとに新商品開発</p> <p>【成果】試食アンケートを実施するまでは、商品開発するにあたって主観的な見方しかできなかったが、多くの人の意見を聞くことで、人それぞれに好みや、味覚が違うことに気付くことができた。試食アンケートを取ることで、自分の好みも大切であるが、他人が何をどう望むかに気付くきっかけになれた。</p> <p>【課題】アンケート結果の集計と分析を終えることができたが、問題点や改善点については、現在検討中のままでいる。無理のない計画であったり、校内の協力を得ながら進める必要があった。</p> <p>II 校内イベントでの取り組み 【まとめ】計画通り徹底することができた。</p>

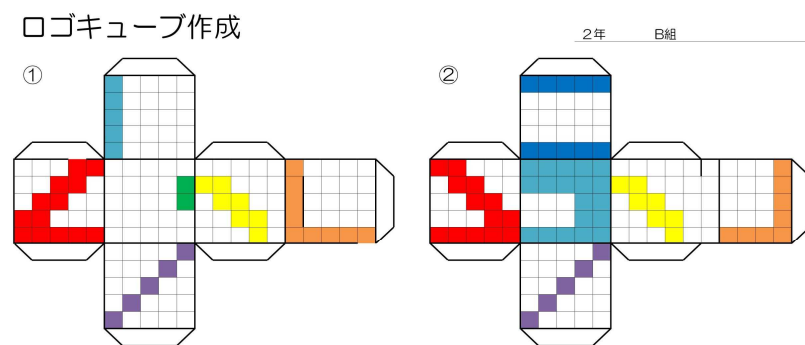
「本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。」



ロゴシート



ロゴデザイン完成例



ロゴキューブ・デザインシート



ロゴキューブ完成

**(特記すべき取組と成果) ロゴキューブ作成の取組について**

手書きによるイラストやロゴをコンピュータグラフィック化するにあたり、デザインの基礎学習として、決められたシートを使ったアルファベットのロゴデザインを行いました。

【学習の目的】①アートとデザインの違いについて理解 ②想像から創造に繋ぐトレーニング ③ロゴデザインから意匠権・パーツの組み合わせの工夫から実用新案権を理解

【指導方法】①4つのブロックに仕切られたデザインシート（細かなマス目になっている）を用意し、そこにアルファベットデザインさせる。②デザインするに当たっての条件は2つ、アルファベットは大文字であること。そして、同じデザインを多く使いできる限り少ないデザインパーツ（4つのブロックの一つ一つ）で完成させる（目標として20パーツ以内）。③キューブ用シートを使い、できる限り少ないロゴキューブで、全てのアルファベットを作成させる。

【反省課題】目的の一つであった②想像から創造に繋ぐトレーニングについては、かなり有効であったと感じています。ロゴキューブの完成まで、かなり頭を悩ませながら取り組んでいました。ただ、課題を理解するまでに時間がかかってしまい、権利との関わりまで深めることができなかったのが今後の課題となります。



学校番号	商 0 9		
学校名	<b>岐阜県立岐阜商業高等学校</b>	担当教員/ 教官名	飯田 裕仁
学校情報	所在地：岐阜県岐阜市則武新屋敷 1816-6 TEL：058-231-6161、FAX：058-233-3195、URL：http://www.kengisho.ed.jp/		

ねらい (○印)	<input checked="" type="radio"/> a) 知財の重要性	<input type="radio"/> b) 法制度・出願	<input type="radio"/> c) 課題解決 (創造性開発・課題研究・商品開発等)
関連法 (○印)	<input checked="" type="radio"/> a) 特許・実用	<input checked="" type="radio"/> b) 意匠	<input checked="" type="radio"/> c) 商標
	<input checked="" type="radio"/> d) 地域との連携活動	<input type="radio"/> e) 人材育成 (学習意欲向上、意識変化等)	<input checked="" type="radio"/> f) 学校組織・運営体制
	<input checked="" type="radio"/> d) 著作権	<input type="radio"/> e) 種苗	<input type="radio"/> f) その他 ( )

タイトル 目的・目標要約	<b>オリジナル商品の開発、販売、流通を通して、知的財産権について学ぶ</b>
目的・目標 ・背景	<p>(目的・目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>産業の発展と特に商標権の役割について理解したうえで、実際企業の実情に関して興味関心を持って考えていく姿勢を身に付ける。</li> <li>商品開発を通し、アイデアの創造から商品化までの基本的な考え方を理解し、実践的な力を身に付けると共に企業としての知的財産マネジメントについて検討する。</li> </ul> <p>(取組の背景)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校マスコットキャラクター「LOB」を、当事業で企画作成し、現在商標登録が完了している。そこで近年は、毎年流通ビジネス科の3年生が、主にそのLOBを用いたオリジナル商品開発を行っている。今年度も商品開発の企画から販売までのマーケティング活動全般を通して、知的財産の在り方を理解し、財産権の必要性を認識させる機会とした。</li> </ul>
活動の経過 (知財との関連)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○知的財産権の基礎基本的な知識の習得 <ul style="list-style-type: none"> <li>事前アンケートと興味付け</li> <li>標準テキストを用いた学習 (導入にマンガやプロローグを利用)</li> <li>本校既存の商標登録 (「LOB」や「凜心水」) 状況についての解説</li> </ul> </li> <li>○商品開発を通しての実践的な知財権の理解 <ul style="list-style-type: none"> <li>市場調査 (売れた商品とは? 広告塔の存在は?)</li> <li>アイデアの創造授業 <ul style="list-style-type: none"> <li>ロゴの作成、語句連想法・インサイト発想法の実施</li> </ul> </li> <li>知的財産の価値について考える実習 (商標や意匠について商品比較)</li> <li>ネーミング・キャラクターの作成 (IPDL検索を実施)</li> <li>業者へのプレゼンテーションの実施</li> <li>商品製造とショッピングセンターでの店頭販売の実施</li> </ul> </li> <li>○ビジネスアイデアコンテストへの応募 <ul style="list-style-type: none"> <li>大阪商業大学へ</li> </ul> </li> <li>○他の関連事業における知的財産権教育 <ul style="list-style-type: none"> <li>a) 飛び出せスーパー専門高校生推進事業 (主に商標権) <ul style="list-style-type: none"> <li>ぎふネットショップハイスクール事業 <ul style="list-style-type: none"> <li>楽天IT学校と連携して、ベーグルパンの企画製造販売</li> <li>ネット販売のためのWebページ作り</li> </ul> </li> <li>地元企業PR番組製作 (商標権・著作権等) <ul style="list-style-type: none"> <li>地元放送局と連携して、地元企業のPR番組の制作</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>

	<p>b) 法教育推進プロジェクト  コンプライアンス、モラルマインドの育成  株式会社の設立の模索</p> <p>○「デザイン工房」の創設</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 広告やポスターを作成することを目的にH24年11月にスタート。</li> <li>・ 岐阜県商工労働部情報産業課と連携し、外部講師を招へいして実施。</li> </ul> <p>○商標（ブランド）の保護・育成についての施策見聞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国としての施策・・・名古屋税関中部空港支署の見学</li> <li>・ ブランド企業の現状・・・模倣品業者との戦いと消費者教育</li> </ul> <p>○専門家（専門業者）による講演。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 商品開発協力業者によるブランド育成のための努力（信頼と期待値コントロール）</li> <li>・ 弁理士としてみる知的財産権講演</li> </ul> <p>○知的財産マネジメント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ テキスト「事業戦略と知的財産マネジメント」の利用（第3章）</li> <li>・ 知的財産権に関する紛争についての意見交換（新聞の活用）</li> </ul>
<p><b>成果</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ まとめ</li> <li>・ 気づき</li> <li>・ 反省</li> <li>・ 課題</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 知的財産権という響きから“権利”、“法”といった難しいイメージから、実際は身近な話題であり、学校のキャラクター等をはじめとして、知的財産権全般について、興味関心を持ってくれた。また、もうひとつの目標であるモラルマインドの育成に関しても、一定の成果を上げることができた。</li> <li>・ 知財マネジメントに関しても、特にリスク管理という観点からその必要意義を考えることができた。</li> <li>・ 反省点として、今年度は多くの事業とともに実習を行うことができたため、一定の成果を上げることができたと思われるが、地元理解の観点から例年考えてきた、地域団体商標に関する考察・実態調査を行う時間が取れなかった。</li> <li>・ 言語活動の充実としては、商品企画のプレゼン等以外に、新聞記事等の事例をもとにして論議するためのディベートを取り入れられず課題となった。</li> </ul>

「本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。」

写真1  
写真2  
販売実習

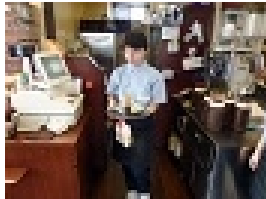


写真3  
税関業務説明  
施設見学

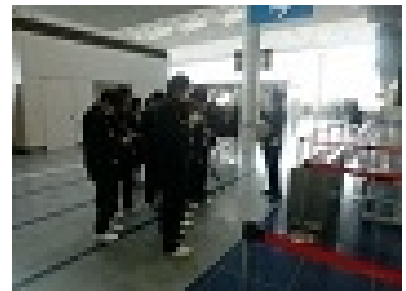


写真4  
デザイン  
工房

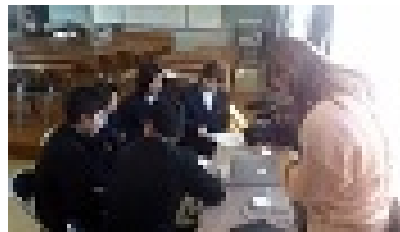
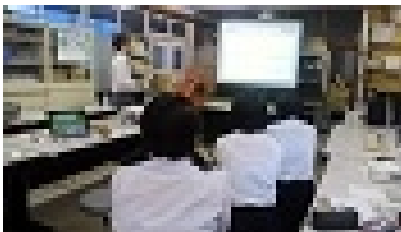
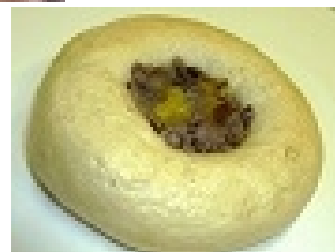


写真5  
番組制作

写真6  
開発カレー  
(県岐商ドリア)



写真7  
開発ベーグル  
(ぜんざいベーグル)



学校番号	商 1 0		
学校名	<b>富士市立高等学校</b>	担当教員/ 教官名	新明 正樹
学校情報	所在地：静岡県富士市比奈 1 6 5 4 TEL：0545-34-1024、FAX：0545-38-3223、URL：http://www.fuji-ichiritsu.jp		

ねらい (○印)	a) 知財の重要性 b) 法制度・出願 c) 課題解決 (創造性開発・課題研究・商品開発等) d) 地域との連携活動 e) 人材育成 (学習意欲向上、意識変化等) f) 学校組織・運営体制
関連法 (○印)	a) 特許・実用 b) 意匠 c) 商標 d) 著作権 e) 種苗 f) その他 ( )

タイトル 目的・目標要約	<b>カレー革命ピロシキ 地元食材を活用した商品開発</b>
目的・目標 ・背景	(目的・目標) 商品開発に関する商標・意匠・特許等の知識を深める  (取組の背景) 本校ビジネス部が地元商店街に持つ常設店舗 (吉商本舗) で作成した商品「カレー革命」の活用を地元商店の方々との協同で考案する。
活動の経過 (知財との関連)	本校は平成 2 3 年度より従来の単独商業 (富士市立吉原商業) から 3 つの専門学科 (総合・ビジネス・スポーツ探究) をもつ新しい高校となった。事業初年度の学習を継続し、本校ビジネス部 (吉商本舗) が開発した「カレー革命」の活用を地元商店の方々との協同で開発する活動を 3 年生のマーケティング演習 (2 単位) で展開した。 地元の食材を活用する等、地域を意識したプレゼン活動を実施し、優れたアイデアを発表しあうグループ活動を重ねた。採用されたアイデアを元に、地元商店の事業者と商品化を試みた。試作品を作り、カレー入りピロシキとしらすとジュレ状にしたポン酢の 2 作品を商品化した。商品名について、商標にかからない名称であることを確認した。 商品化した 2 品は 9 月に開催されたイベントにおいて、2 0 0 食分を完売した。また、1 1 月に実施された産業教育フェア (愛知大会) において成果発表をおこなった。
成果 ・まとめ ・気づき ・反省 ・課題	ビジネス部の発案した商品を元に、継続した学習活動を展開できた。 新しいアイデアを商品に加える課程では、商品の持つ個性や特色を捉えたプレゼンが難しいようであった。既存の商品の新たな展開事例は、同様の産みの苦しみを経て進んでいくものだという事を学習できた事は成果の一つとなった。 新しい商品化に際し、地元商店の方々の多大なるご支援をいただいた。生徒らも学校外の事業主との協同作業に戸惑いを感じながらも柔軟に対応し、進めることができ、コミュニケーション能力の伸長に役立った。また、試作品の販売では、イベントに参加することで前向きな販売活動の実践を体験することができた。 今回実現はしなかったが、他にも良い企画が多数あったので、次年度以降にこれらのアイデアを有効活用する機会を作ることができたらと考える。

「本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。」



ピロシキに餡を入れる説明を受ける



イベントでの販売促進活動



パッケージとイラスト



イベントの店舗

自動車学校のコースを全面使用しておこなわれたイベント。

たくさんの来場者に対して、ピロシキ200食分を販売した。

試作品の製作から指導いただいた事業主の方たちと早朝から準備してイベントに参加した。

天候にも恵まれ、用意した商品は昼過ぎに完売し、心地よい汗を流すことができた。

ピロシキはロシアのパンであるが、昔、富士市の田子の浦においてロシアの船を修理した縁で、今回の商品化となった。餡のしらすは、隣町の由比港の特産品。ポン酢もビジネス部が開発した商品であり、今回はジュレ状にしたポン酢をしらすに混ぜてさわやかな風味のピロシキに仕上がった。

指導にあたった地元商店街の事業主の協力で、生徒たちも諦めることなく商品開発から販売活動までを学ぶことができた。過去に商品化したポン酢とカレーを元に、生徒たちの柔軟な発想から今後もさまざまな商品が生まれることを楽しみにしたい。

学校番号	商 1 1		
学校名	<b>愛知県立南陽高等学校</b>	担当教員/ 教官名	柘植 政志 三田 千英子 今尾 あかね
学校情報	所在地：愛知県名古屋市中区大西二丁目 99 番地 TEL：052-301-1973、FAX：052-302-6624、URL：http://www.nanyo-h.aichi-c.ed.jp/		

ねらい (○印)	a) 知財の重要性 b) 法制度・出願 c) 課題解決 (創造性開発・課題研究・商品開発等)
関連法 (○印)	d) 地域との連携活動 e) 人材育成 (学習意欲向上、意識変化等) f) 学校組織・運営体制
	a) 特許・実用 b) 意匠 c) 商標 d) 著作権 e) 種苗 f) その他 ( )

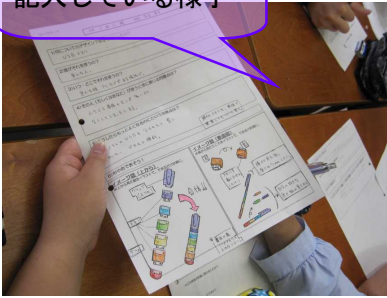
タイトル 目的・目標要約	<b>知的財産学習を活用した、環境配慮型商品開発と問題解決学習の実践</b>
目的・目標・背景	<p>(目的・目標) 前年度行った商品開発に環境の視点を加えた知財教育を実践し、取り組みの内容を深める。 知財教育の充実のために対象生徒を増やし、全校での取り組みを実施することで、学校としての知財教育の充実を図る。</p> <p>(取組の背景) 昨年度本事業に参加し、部活動の中で地域と商品開発をテーマに知財教育を実施してきた。 また、本校生徒の問題解決能力の育成について今後の方策を、進路指導部で研究していた。</p>
活動の経過 (知財との関連)	<p><b>1 学期</b> 2 年生の総合的な学習の時間では、意匠権に関する講習会を行い、意匠デザインを考えさせ、クラス、学年の発表会を行った。 部活動では、環境ロゴマークの使用許可を申請するとともに、新商品の試作や生徒による商標権の伝達講習等を行った。また、新商品開発のために外部講師を呼び、商品開発のための講座を行ってもらった。</p> <p><b>夏休みおよび 2 学期</b> 総合的な学習の時間で行った発表をもとに、意匠デザインをデザインパテントコンテストへ応募した。 部活動では、環境に配慮した商品とするために、藤前干潟への見学や、カーボンオフセットクレジットを購入し、二酸化炭素排出量ゼロの商品を企画した。カーボンオフセットクレジットが創出されている現場の見学も行った。また、商品のモニタリング調査の講習会を行い、新商品のネーミングのモニタリング調査を行い、商標権についての学習を深めている。学校開放講座では、お絵かきクッキーの講習会を開き、その中で小学生に対し商標権についても説明を行った。また、商標の模擬出願の学習を行い理解を深めた。</p>
成果 ・まとめ ・気づき ・反省 ・課題	<p>今回の指導から総合的な学習の時間に関しては、当初考えていた内容より充実したものとなった。特にその部分が見られたのは教員である。教科に関係なく学年の中で知財についての議論がされ、生徒の問題解決能力の育成に大きな影響を及ぼすことができたと考えている。今回の授業を受けた生徒達は来年 3 年次に卒業論文を書く事になるが、今回の取り組みが生かされるかどうかは課題である。部活動に関しては、環境配慮型商品開発を通して、商標に関する学習を深めることができたと思う。この取り組みを部活動だけでなく、既存の科目の中にも生かしていきたいと考える。今後も定着へ向けて教員の協力体制の構築を行いたい。</p>

「本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。」



意匠権についての授業

意匠をプリントに記入している様子



意匠の考案



考案した意匠を廊下へ掲示



意匠クラス発表会

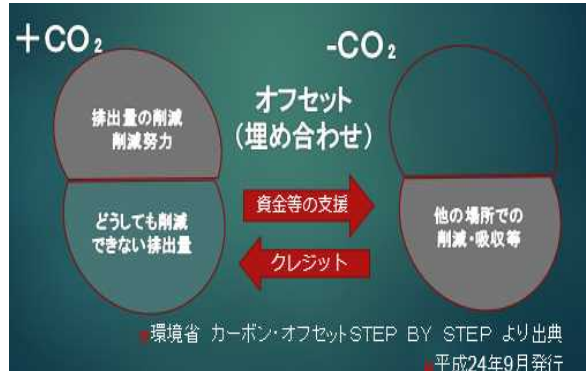


意匠学年発表会

生徒間の情報共有や教員への周知に非常に効果がありました。



環境配慮型商品の試作



カーボンオフセットについて



証明書

環境配慮型商品と知財教育について

今回環境配慮型の商品開発を実施し、これまでの商品に付加価値を加え、その商品をイメージ出来るような商標を考案させることにした。商品の試作に加え、環境への意識を高めるために、藤前干潟への見学や、水源林見学会への参加、あいちエコチャレンジ21へ賛同するなど様々な取り組みを行った。その中で、昨年度も企画した「おもちゃばこカレー」と本年度企画した「わらびもち」のラベルを作成し、ネーミングを考え、モニタリング調査を行った。モニタリング調査には製品の試食や、はがきを使ったデータの収集を行った。今回の商品は調理の際に排出される二酸化炭素を計算し、自分たちの活動で使っている袋等をバイオマス素材の物を使用することで、二酸化炭素の削減に努め、二酸化炭素ゼロのお弁当とわらびもちを企画した。商品名についてはIPDL検索も行っている。



環境配慮型商品

学校番号	商 1 2		
学校名	<b>愛知県立緑丘商業高等学校</b>	担当教員/ 教官名	竹内 祥真
学校情報	所在地：愛知県名古屋市守山区緑ヶ丘 1008 番地 TEL：052-791-8226、FAX：052-791-7885、URL：http://www.midorigaoka-ch.aichi-c.ed.jp		

ねらい (○印)	<input checked="" type="radio"/> a) 知財の重要性   b) 法制度・出願   c) 課題解決 (創造性開発・課題研究・商品開発等)
関連法 (○印)	a) 特許・実用   b) 意匠 <input checked="" type="radio"/> c) 商標   d) 著作権   e) 種苗   f) その他 (   )

タイトル 目的・目標要約	<b>地域で育む無垢材のおもちゃプロジェクト</b>
目的・目標 ・背景	<p>(目的・目標) 工務店、養護学校、幼稚園と連携し地域活性化を図る。商業高校生だからこそできる活動として地域貢献をし、商標を取得することを目標とする。</p> <p>(取組の背景) 地域企業、団体と連携し、地域から必要とされる学校を目指し、知的財産に関する知識やそのスキルを駆使することのできる人材を育成することを図る。</p>
活動の経過 (知財との関連)	<p>「無垢材のおもちゃプロジェクト」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・愛知教育大学の大学祭に出店し、今までの取組活動と今後の計画について発表。</li> <li>・旭洋木材建設(株)より無垢材の提供を受ける。</li> <li>・金城学院大学と連携し、園児の発達段階に応じたおもちゃを考案。</li> <li>・名古屋市立守山養護学校へ無垢材提供、おもちゃ作成依頼。</li> <li>・愛知県高等学校生徒商業研究発表大会に出場 (準優勝、東海大会出場)</li> <li>・外部講師として、いちい信用金庫の方を招き、知的財産についての講話をしていただき、理解を深める。</li> <li>・取組成果として完成した無垢材のおもちゃを山下保育園に提供。</li> <li>・プロジェクトの成果の発表 (プレゼン)</li> </ul>
成果 ・まとめ ・気づき ・反省 ・課題	<p>生徒の企画したものが実際に形になり、充実感あふれる体験をすることができ、園児の笑顔を作り出すことができた。また、この事業に携わり、テキスト等を用いて知的財産の授業を行うことができた。非常に良い成果を上げることができた。</p> <p>今年度は3年生課題研究 27 名、有志5名の活動であった。今後さらにこのプロジェクトを発展させていく必要がある。また知財教育は、全校生徒並びに教員を含め学校全体で取り組むことのできる組織づくりが必要になると思われる。</p>

「本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。」



写真1 大学祭に出店



写真2 おもちゃ加工



写真3 守山養護学校からおもちゃ受け取り



写真4-1 作成されたおもちゃ



写真4-2



写真4-3



写真5 おもちゃのプレゼント



写真6 園児たちの笑顔

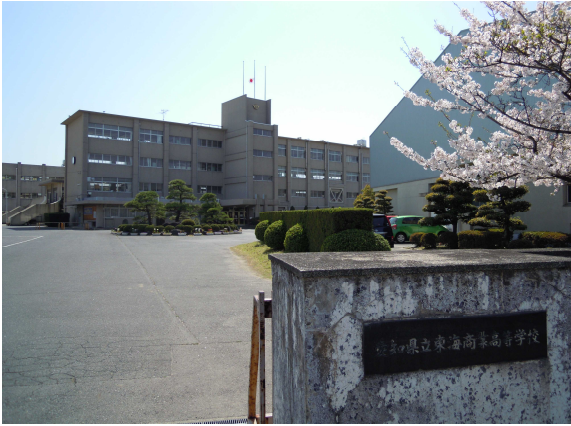


学校番号	商 1 3		
学校名	<b>愛知県立東海商業高等学校</b>	担当教員/ 教官名	黒瀬 喜人
学校情報	所在地：愛知県東海市大田町曾根 1 番地 TEL：0562-32-5158、FAX：0562-33-7531、URL：http://www.tokai-ch.aichi-c.ed.jp		

ねらい (○印)	a) 知財の重要性 b) 法制度・出願 <b>(c)</b> 課題解決 (創造性開発・課題研究・商品開発等) <b>(d)</b> 地域との連携活動 e) 人材育成 (学習意欲向上、意識変化等) f) 学校組織・運営体制
関連法 (○印)	a) 特許・実用 b) 意匠 <b>(c)</b> 商標 d) 著作権 e) 種苗 f) その他 ( )

タイトル 目的・目標要約	<b>オリジナルキャラクターを利用し、知的財産権を学習する</b>
目的・目標 ・背景	(目的・目標) オリジナルキャラクター「まちづくり応援大使」の5つのキャラクターを活用した商品開発を通し、知的財産権を学ぶ。キャラクターの着ぐるみ化。 ----- (取組の背景) 本校の課題研究から誕生した、5つのキャラクターをいかにして活用するかという背景があった。
活動の経過 (知財との関連)	<p>【5月】弁理士会東海支部 外部講師 知的財産紛争劇</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外部講師を招聘し、知的財産権に関する学習を実施した。</li> </ul> <p>【6月】名古屋学院大学 外部講師 商品開発</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学教授を招聘し、商品開発について具体的な事例を基に講義やグループワークを行った。</li> </ul> <p>【10月】文化祭 校内販売</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「オニオンマン」の着ぐるみが完成。文化祭オープニングで生徒にお披露目を実施した。</li> <li>・地元企業からの協力を得て、丸ごとたまねぎときりゅうり棒を文化祭にて販売した。</li> </ul> <p>【11月】東海秋祭り 物品販売</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東日本大震災被災地の釜石から商品を仕入れ、2日間にわたり物品販売を実施した。</li> </ul> <p>【12月】ウィンターイルミネーション太田川駅前広場 炊き出し</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地元コミュニティーFM主催のイベントに参加し、コーンスープを市民に無料提供した。</li> </ul> <p>【1月】財務省名古屋税関中部国際空港 知的財産権関係見学</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・知的財産権のまとめとして中部国際空港にある税関の見学会を実施した。</li> </ul> <p>【1月】東海フラワーショウ2014 物品販売</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地元商工会議所と協力して、東海商業高校の取り組み発表や物品販売を実施した。</li> </ul> <p>【2月(予定)】課題研究発表会</p>
成果 ・まとめ ・気づき ・反省 ・課題	<p>知的財産に関する創造力・実践力・活用力開発事業は本校では初実施となった。色々と手探りの状態でのスタートではあったが、各方面からの協力を得ることができ、生徒にとって様々な経験をすることができたと思われる。今年度は課題研究14名での実施ではあったが、次年度以降の「商品開発」の授業での取り組みができるよう校内での調整が必要である。</p> <p>本年度は、本校生徒が考案した「まちづくり応援大使」の5つのキャラクターの1つである「オニオンマン」が着ぐるみとなり大きな成果がでた。現在、各方面で活躍をしており、認知度がさらに向上したと思われる。</p> <p>実習がメインとなったが、次年度以降は座学の要素も大きく取り入れたいと考えている。</p>

「本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。」



校舎風景



授業風景



「まちづくり応援大使」キャラクター



携帯ストラップ商品化



クリアファイル商品化



東海秋祭り販売実習



クリスマスイベント 炊き出し



クリスマスイルミネーション

学校番号	商 1 4		
学校名	<b>愛知県立知立高等学校</b>	担当教員/ 教官名	原 啓二
学校情報	所在地：愛知県知立市弘法 2 丁目 5 番地 8 TEL：0566-81-0319、FAX：0566-81-5297、URL：http://www.chiryu-h.aichi-c.ed.jp/		

ねらい (○印)	<input checked="" type="radio"/> a) 知財の重要性 <input checked="" type="radio"/> b) 法制度・出願 <input checked="" type="radio"/> c) 課題解決 (創造性開発・課題研究・商品開発等)
関連法 (○印)	<input checked="" type="radio"/> a) 特許・実用 <input checked="" type="radio"/> b) 意匠 <input checked="" type="radio"/> c) 商標 d) 著作権 e) 種苗 f) その他 ( )

タイトル 目的・目標要約	<b>アイデア商品および商標の開発を通じて行う知財学習</b>
目的・目標 ・背景	<p>(目的・目標) 多面的な活動 (企業研究・企業見学・裁判傍聴・税関見学・弁理士講義等) を通しての知的財産権制度の理解とデザインパテントコンテストへの応募</p> <p>(取組の背景) 昨年よりデザインパテントコンテストへの応募を始め、これを通して充実した知財教育ができた。</p>
活動の経過 (知財との関連)	<p>(導入)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>標準テキストを活用した授業 (先行意匠の確認)</li> <li>デザインパテントコンテストへの取り組みガイダンス <b>写真 1</b></li> </ul> <p>(展開)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>外部講師による講演会の実施 <b>写真 2・3</b></li> <li>商品エントリーシートの作成 (その前に「ハンドデザイン→ゴーイングデザインを考える」 <b>写真 4</b>)</li> <li>セントレア空港の見学 (税関業務説明会) <b>写真 5・6</b></li> <li>企業・裁判所の見学 (コカコーラ東海工場、岡崎八丁味噌、名古屋地方裁判所) <b>写真 7</b></li> <li>小説「下町ロケット」を読む→重要部分に付箋を付ける→重要部分の抜き書き</li> </ul> <p>(整理)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>デザインパテントコンテストへの応募</li> <li>課題研究発表会 (1・2 年商業科・情報処理科全 8 クラス) に向けての準備</li> </ul>
成果 ・まとめ ・気づき ・反省 ・課題	<p>本年度は対象学科すべてにおいて、デザインパテントコンテストへ応募を試みたが入賞者ゼロに終わってしまった。この原因は目的や意義をうまく伝えられなかったことにあると思う。生徒達はまじめに取り組んでいる。しかし受け身になってしまっただけでは成果が上がらない。</p> <p>セントレア空港の税関業務見学は、事前学習の大切さをあらためて実感させられた。事前学習をしっかり行った集団は興味・関心が強く、説明や経験したことをよく吸収した。</p> <p>地元企業の見学では、岡崎の「八丁味噌」の見学を 1 社ではなく 2 社訪問したことで、地域ブランドの意識や商標に対するこだわりや社風の相違等を理解するよい機会になった。</p> <p>多面的な活動がうまくリンクし、生徒達の知財への関心度が向上し、多方面への興味関心を向けるようになった。また、課題研究で感じたことを新聞への投稿という形でも発表させたことが効果をさらに拡大させた。</p>

「本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。」

写真1：かたの後の取組



写真2：弁理士講演会



写真3：crocs 講演会



写真4：ゴーイングマテデザイン

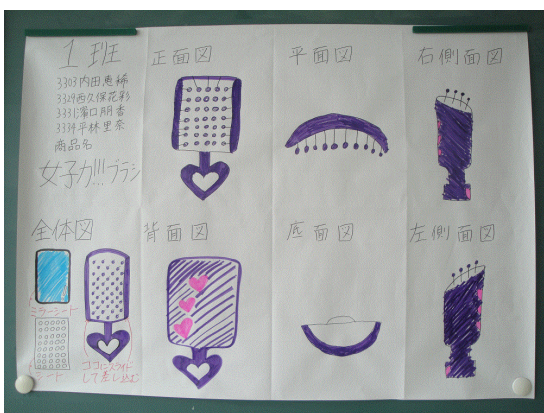


写真5：税関業務説明会



写真7：名古屋地方裁判所（裁判傍聴）



写真6：本物と知的財産侵害物との比較



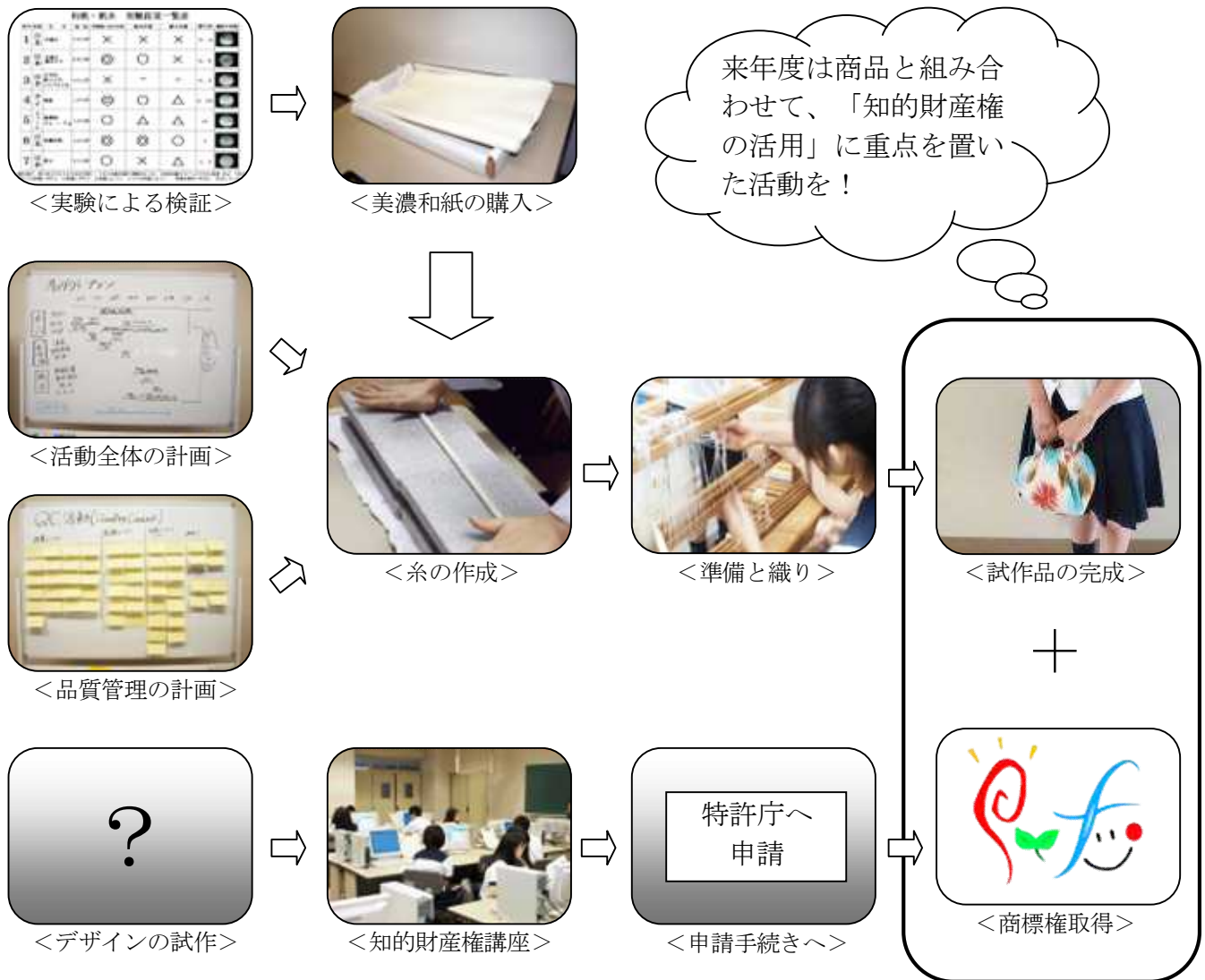
学校番号	商 1 5		
学校名	<b>名古屋市立名古屋商業高等学校</b>	担当教員/ 教官名	三浦 朝生
学校情報	所在地：愛知県名古屋市千種区自由ヶ丘二丁目 1 1 番 4 8 号 TEL：052-751-6111、FAX：052-761-7508、URL：http://www.nagoya-ch.ed.jp/		

ねらい (○印)	a) 知財の重要性 <b>(b)</b> 法制度・出願 <b>(c)</b> 課題解決 (創造性開発・課題研究・商品開発等) d) 地域との連携活動 e) 人材育成 (学習意欲向上、意識変化等) f) 学校組織・運営体制
関連法 (○印)	a) 特許・実用 b) 意匠 <b>(c)</b> 商標 d) 著作権 e) 種苗 f) その他 ( )

タイトル 目的・目標要約	<b>商品開発を通して学ぶ商標権</b>
目的・ 目標 ・背景	(目的・目標) 商品開発を通してより実践的な商標権申請と対応を学ぶ。  ----- (取組の背景) 和紙を使用した商品開発の試作品作成と商品としての統一ブランドであるマークを商標登録する。
活動の 経過 (知財との 関連)	標準テキストを用いて、産業財産権に関する基礎的な知識習得を行った。また、弁理士の先生を招聘して、その実例をケーススタディとして学習を進めた。その際に、生徒が考案した商標権登録するデザインについて、申請上どの点において不都合があるかを指摘していただき、改善点がより具体的に感じられるように講義をしていただいた。 また、和紙を使用した商品の試作品を作成や企業への見学などを通して実務において、どのように知的財産権が関わっているかなど学んだ。 具体的には、織物においてその織りの組織やデザインについては模倣がされやすく、どの程度似ていれば模倣にあたるかなど線引きが難しい点などを知ることができた。 実際の商標権申請では、弁理士の先生からの手続きの説明と申請書の作成により、商標権の申請を実際に行った。(※ 申請に関する費用は、別予算から支出) 後日、特許庁より拒絶理由通知書の送付があったため、内容検討と弁理士の先生の指導のもと、特許庁の審査官へ電話での説明を生徒自身で行った。 また、その説明に基づく意見書を作成し、40日以内に特許庁へ書留郵便で送付を行った。現在は、商標権審査中である。もし、登録が許可されれば、この後納付の手続きを生徒自身で進める予定である。
成果 ・まとめ ・気づき ・反省 ・課題	本年度の活動を通じて、知的財産制度全体に関する知識と商標権申請手続きに関する知識を学ぶことができた。特に商標権申請手続きでは、単に申請して終わるのではなく拒絶理由通知書に関する対応を通じて、より実践的な知的財産権学習を行うことができた。 生徒においても自ら申請することにより、より身近に知的財産権制度を感じる事ができたと思う。また、実際に企業に訪問し各分野において、どのように知的財産制度が関連しているか学ぶことができたと思う。 今後は、単に取得や講座を受講するのみで終わるのではなく、取得した知的財産について「活用」をテーマに活動を継続実施していきたい。

「本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。」

## ○ 今年度の活動概要図



## ○ 全体を通して

本年度の取り組みについてもっと成果を上げることができたことは、技術を習得したことである。一つは、知的財産権制度全体の知識と申請手続きについてより実践的に学ぶことができた。特に、拒絶理由通知書への対応は単に教科書で知識を学ぶだけでなく、どのような書類が送付され、それに対する対応にはどのようなものがあるかを弁理士の先生を交えて具体的に学ぶことができた。これが一つ目の技術の習得である。二つ目は、文字通り商品をつくる技術の習得である。和紙の原料から糸をつくり、そこから布を織るという一連の作業を学ぶことができた。これらの活動で技術を確立することができたのは、その作業一つ一つに生徒自身が直接関わっているからである。

課題があるたびに、どのように対応していくべきかを考え、時には生徒自身が考え、時には専門家の助言を得ながら時間をかけて一つ一つ解決していった成果である。

今年度実施した活動を基礎に、さらに来年度は知的財産権を活用することに重点を置いた活動を目指している。



学校番号	商 1 6		
学校名	<b>兵庫県立長田商業高等学校</b>	担当教員/ 教官名	大山 俊也
学校情報	所在地：兵庫県神戸市長田区池田谷町 2 - 5 TEL：078-631-0616、FAX：078-631-0617、URL：http://www.hyogo-c.ed.jp/~nagata-chs/		

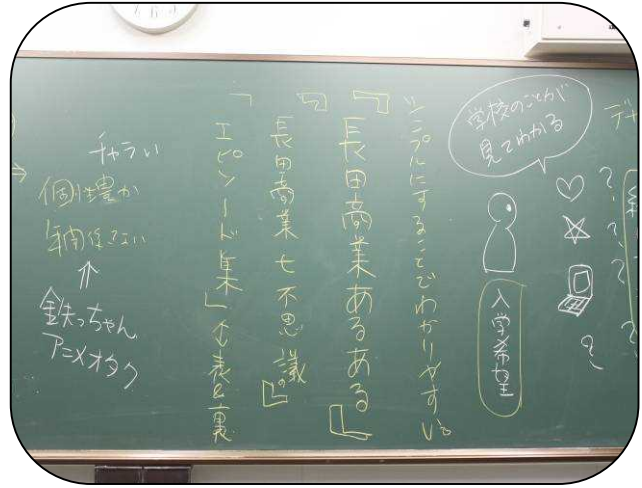
ねらい (○印)	<input checked="" type="radio"/> a) 知財の重要性   b) 法制度・出願 <input checked="" type="radio"/> c) 課題解決 (創造性開発・課題研究・商品開発等) d) 地域との連携活動   e) 人材育成 (学習意欲向上、意識変化等)   f) 学校組織・運営体制
関連法 (○印)	<input checked="" type="radio"/> a) 特許・実用 <input checked="" type="radio"/> b) 意匠   c) 商標   d) 著作権   e) 種苗   f) その他 (   )

タイトル 目的・目標要約	<b>スクールキャラクター・商品開発を通して知的財産を考える</b>
目的・ 目標 ・背景	(目的・目標) スクールキャラクター・商品開発を通して知的財産を考える  ----- (取組の背景) 昨年度からの取り組みを発展させることを目的として、取り組みの目標を設定した。生徒になじみのあるスクールキャラクターを通して、知的財産をより身近に考える取り組みとした。
活動の 経過 (知財と の関連)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 産業財産権標準テキストを利用して、知的財産の基礎知識に関する学習</li> <li>・ デザイナーによる講演</li> <li>・ 高校生ビジネスプラン主催団体の担当者による講演</li> <li>・ スクールキャラクター関連商品の開発</li> <li>・ スクールキャラクターを利用した学校PR活動の考案</li> <li>・ 学校PR看板のデザインと作成</li> <li>・ 特許を活かしたビジネスプランの考案</li> <li>・ 高校生ビジネスプラングランプリへの応募</li> <li>・ 研究のまとめ</li> <li>・ 知的財産権の知識に関するテスト</li> <li>・ 研究発表会</li> </ul>
成果 ・まとめ ・気づき ・反省 ・課題	産業財産権標準テキストを利用した学習は、生徒の知的財産への意識を高めるのにとっても有効だった。小テストをおこなうことで、知識の定着を確認することができた。 取り組みも2年目になるが、まだまだ見通しが甘く、計画が最後まで実行できなかった。その中でも、外部講師の授業や、リフレーミング技法を使ったブレインストーミング、ビジネスプランの考案など生徒も主体的に取り組むことができ、学校PR看板の作成や学校PRグッズの作成など成果を出すことができた。今後も他校の取り組みを参考にしながら、充実した取り組みを実践していきたい。

「本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。」



デザイナーによる授業



学校PRアイデア創出



ビジネスプラン校内発表会



リフレーミング技法を利用したブレインストーミング



学校PRのための商品開発



学校PR看板の作成



学校番号	商 1 7		
学校名	<b>伊丹市立伊丹高等学校</b>	担当教員/ 教官名	古川 裕士
学校情報	所在地：兵庫県伊丹市行基町 4 丁目 1 番地 TEL：072-772-2040、FAX：072-777-8640、URL：http://www.h-itami.itami.ed.jp		

ねらい (○印)	<input checked="" type="radio"/> a) 知財の重要性   b) 法制度・出願 <input checked="" type="radio"/> c) 課題解決 (創造性開発・課題研究・商品開発等)
関連法 (○印)	a) 特許・実用 <input checked="" type="radio"/> b) 意匠 <input checked="" type="radio"/> c) 商標 <input checked="" type="radio"/> d) 著作権   e) 種苗   f) その他 (   )

タイトル 目的・目標要約	<b>商品企画や商品開発を通して知的財産権を考える。</b>
目的・目標・背景	<p>(目的・目標) 商品企画や商品開発を通して知的財産権を考える。</p> <p>(取組の背景) 本校では昨年度より商品開発・販売実習を行い、商品開発を通じた地域活性化にも取り組んでいる。このような取り組みを知的財産教育を通じてさらに発展させたい。</p>
活動の経過 (知財との関連)	<p>1 年～3 年まで、商業科全体として商品開発を行った。今年度は、オリジナルキャラクターを使った商品の開発を行うことによって、商標権についての学習を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オリジナルキャラクターの考案 2014 年の NHK 大河ドラマ「軍師官兵衛」にあやかり、伊丹にもゆかりがある黒田官兵衛をモチーフにしたキャラクターを生徒が考案した。</li> <li>・オリジナルキャラクターを使った商品の考案 どのような商品にオリジナルキャラクターを用いるか生徒が考案した。</li> <li>・販売実習 8 月 1 日～8 月 8 日まで商店街の空き店舗にて開発した商品の販売を行った。</li> <li>・販売方法等の改善 生徒が開発した商品は洋菓子を中心とした菓子類であるが、商店街での商品ディスプレイや販売方法が商品デザインと合わないと感じた。</li> <li>・学校ブランドのロゴマーク作成と販売ユニホームの作成 生徒が学校ブランドのロゴマークを考案し、それを用いた販売実習用のユニホーム (エプロン) を作成した。</li> <li>・兵庫県高等学校総合文化祭文化部合同発表会での販売 (1 1 月 23 日) 開発商品の紹介と販売を行った。また、他校の開発商品の販売についても見学し、刺激を受けることができた。</li> <li>・伊丹市観光物産ギャラリーでの販売 (1 2 月 22～23 日) カフェスペースでの販売を行った。販売を実施するにあたっては、カフェと販売スペースの調和について工夫し、一定の成果が得られた。</li> </ul>
成果 ・まとめ ・気づき ・反省 ・課題	<p>商標権・意匠権などを学習していく中で、商品の付加価値を考えた場合、デザインやブランドは重要な要素であるがそれを活かすための販売方法の工夫についても重要である。</p> <p>8 月の販売実習では協力先企業の名前を聞いて買っていく人が多く、協力先企業の地元でのブランド価値について体感することができた。また、1 2 月のカフェスペースでの販売実習においては観光物産ギャラリーを活性化させるために商品の販売を行ってほしいとの依頼があり実現した。これまでの活動を通して本校のブランド価値も向上したように思う。</p>

「本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。」

## キャラクターの考案



## ロゴマーク作成



### 協力先企業との商談



### 販売実習 (8月1日～8月9日)

### 開発商品



### 販売実習 (12月22日～12月23日)



### 商品開発を通じた知的財産教育の取り組みについて

黒田官兵衛をモチーフにしたオリジナルキャラクターの考案を行い、市内の企業等と連携して商品開発に取り組み、キャラクター商品8種類を開発した。

開発した商品は、昨年度の商品やキャラクター商品以外の商品とともに8月1日～8月9日まで伊丹サンロード商店街の空き店舗にて販売実習を行った。商店街の販売実習ではキャラクターよりも協力先企業の名前を聞いて買っていく人が多かったため、協力先企業の地元でのブランド力について体感することができた。また、この取り組みは新聞報道などでも取り上げられ、商品についてもすべて完売することができた。

販売実習を振り返り、その反省から販売方法の改善に取り組んだ。本校の開発商品は洋菓子を中心であるが、それらの商品デザインを活かすことができるような販売方法の工夫に取り組んだ。

そのような中で、11月にJR伊丹駅構内にある伊丹市観光物産ギャラリーがリニューアルオープンし、カフェスペースが併設された。そのカフェスペースで12月に販売ができることとなり、POPや商品ディスプレイなどを工夫し、カフェとの調和を図った。また、リニューアルオープンした観光物産ギャラリーの活性化にも貢献できた。ブランドやデザインなどの知的財産を販売やマーケティングで活用できるようにこれからも取り組みたい。

学校番号	商 1 8		
学校名	<b>兵庫県立神戸商業高等学校</b>	担当教員/ 教官名	大内 希弥子
学校情報	所在地：兵庫県神戸市垂水区星陵台 4 丁目 3 番 1 号 TEL：078-707-6464 FAX：078-707-6466 URL：http://www.kobechs.ed.jp/		

ねらい (○印)	<input checked="" type="radio"/> a) 知財の重要性	<input type="radio"/> b) 法制度・出願	<input checked="" type="radio"/> c) 課題解決 (創造性開発・課題研究・商品開発等)
関連法 (○印)	<input checked="" type="radio"/> d) 地域との連携活動	<input type="radio"/> e) 人材育成 (学習意欲向上、意識変化等)	<input type="radio"/> f) 学校組織・運営体制
	<input type="radio"/> a) 特許・実用	<input type="radio"/> b) 意匠	<input checked="" type="radio"/> c) 商標
	<input type="radio"/> d) 著作権	<input type="radio"/> e) 種苗	<input type="radio"/> f) その他 ( )

タイトル 目的・目標要約	<b>商品開発・販売実習「県商生活」における商標権</b>
目的・目標・背景	<p>(目的・目標) 生徒たちの知的財産に関する理解を深め、意識向上を図るための教育を研究する</p> <p>(取組の背景) 本校では、商業教育の一環として「県商生活」という販売実習を行っており、数年前より企業と連携して商品開発に取り組んでいる。そこで、商品開発の体験だけに終わらせるのではなく、商品開発に関連した知的財産について学び、将来の知的財産立国の一員として活躍できる人材育成に取り組むと考えた。</p>
活動の経過 (知財との関連)	<p>○知的財産教育に本格的に取り組むこととなったため、指導する教員のセミナーをはじめ、1 年生のセミナー、3 年生課題研究のセミナーを実施し、基礎の定着を図った。(写真 1 2)</p> <p>○事前学習で商標について学習した 3 年生の課題研究および部活動で商品開発・販売実習に携わっている産業調査部の生徒が商品開発企画書を作成して、生徒達自身でプレゼンテーションを行った。その後、神戸風月堂様より商品開発・製造責任者にお越しいただき、プロの目で商品企画について精査していただき、50 以上の企画書の中から現実的に商品化が可能な企画書の選定をしていただいた。(写真 3 4)</p> <p>○数年前よりお世話になっている神戸製菓専門学校にて事前に選定された企画書のレシピの作成 (素材の選定、具体的な配合や分量、原価計算、販売価格決定等) を行なった後、実際にプロが作る手際やコツを見学し、自分たちでもパウンドケーキを作った。(写真 5 6 7)</p> <p>○県商生活実施期間中一番の売れ筋であった黒豆おかし「黒兵衛」について商標登録が可能かどうか検証し、模擬登録実習を行なった。IPDL で様々な検索方法で検証した結果、登録が難しい状況であることが判明したので他の商標を考案し、登録申請書類に記入するところまでを学んだ。(写真 8 9)</p>
成果 ・まとめ ・気づき ・反省 ・課題	<p>企画書の作成 (商品、商標およびパッケージ) → プレゼンテーション → 商品化する企画の選定 → 企画書の再考 → レシピ作成 → 原価計算 → 試作 → レシピの再考 → 販売価格の決定という簡単ではあるが、商品開発の一連の流れを実践的に学んだことで、商品企画における理想と現実について学ぶことができ、考えていたよりも商品開発において考慮すべきことが多岐に渡るということを知ることができた。また、いくつかの工程でプロフェッショナルに関わっていただくことで多くの気づきを得ることができた。</p> <p>知的財産教育に関わる生徒がごく一部であったため、今後はより多くの生徒に知的財産権について学ぶ機会を作っていきたい。</p>

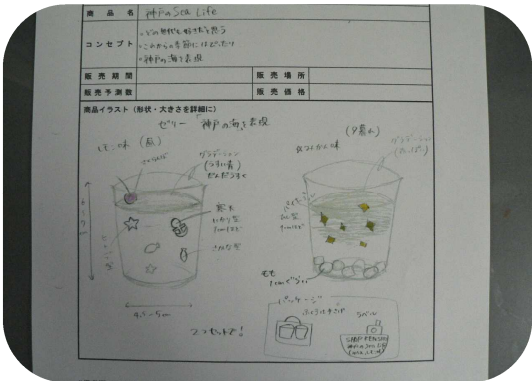
「本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。」



(写真1 1年生向けセミナー)



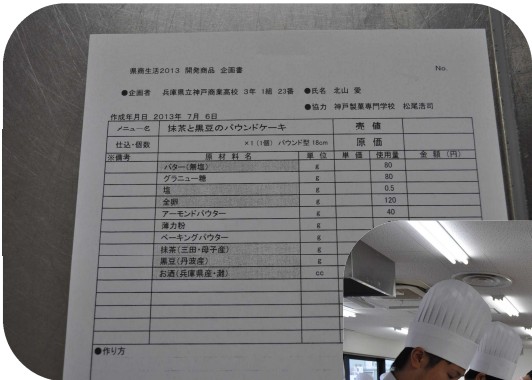
(写真2 3年生向けセミナー)



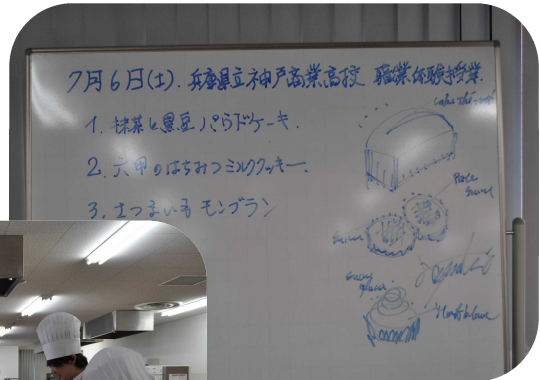
(写真3 商品企画書)



(写真4 プレゼンテーションの様子)



(写真5 レシピの作成)



(写真6 試作品説明)



(写真7 試作風景)



(写真8 IPDL検索)



(写真9 商標登録模擬申請)

学校番号	商 1 9		
学校名	<b>鳥取県立米子南高等学校</b>	担当教員/ 教官名	井上 樹一郎 山根 範昭
学校情報	所在地：鳥取県米子市長砂町 2 1 6 番地 TEL：0859-33-1641、FAX：0859-33-1642、URL：http://www.beinan.ed.jp/		

ねらい (○印)	a) 知財の重要性 b) 法制度・出願 <b>○c</b> 課題解決 (創造性開発・課題研究・商品開発等) <b>○d</b> 地域との連携活動 e) 人材育成 (学習意欲向上、意識変化等) f) 学校組織・運営体制
関連法 (○印)	a) 特許・実用 b) 意匠 <b>○c</b> 商標 d) 著作権 e) 種苗 f) その他 ( )

タイトル 目的・目標要約	<b>本校キャラクターづくり</b>
目的・ 目標 ・背景	(目的・目標) キャラクターづくり  ----- (取組の背景) 本校は商業科があるため販売実習などの活動が多い、また本校の開発商品を販売する際、米子南高校と一目で見たらわかるキャラクターをつくり、地元から認知されたい。
活動の 経過 (知財と の関連)	〈活動内容〉 ①キャラクターデザイン・ネーミングの考案 ②キャラクターの生い立ち・生態・家族構成などストーリーづくり ③キャラクターのミニチュアづくり 紙粘土・フェルトを使用して、実際に作品を作る ④キャラクター展示と人気投票の実施 ⑤弁理士による「模擬登録の方法」の講義を実施  〈知財との関連〉 (今回生徒それぞれがつくった作品を商標登録するものと仮定して、弁理士を招き「模擬登録の方法」を学習した。)
成果 ・まとめ ・気づき ・反省 ・課題	生徒それぞれが工夫を凝らし、オリジナルの本校キャラクターづくりに取り組んだ。1 学期から取り組んでいれば良かったが、2 学期からの取り組みになってしまい、実際に本校キャラクターを決定できなかった。今後実際にキャラクターを決定するとともに、ゆくゆくは着ぐるみを作成し、販売活動やイベントの時などに利用したい。

「本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。」

作品作り実習の様子！



(例) 校舎写真



(例) 活動風景写真

商業高校だけに電卓をイメージした作品  
「でんたくん」！



(例) 創作作品



(例) 創作作品

本校校章である、しましまの「蜂」をイメージした作品「しまぶん」

### (特記すべき取組と成果) キャラクターづくりの取組について

今年86周年を迎えた本校は商業学科と家庭学科を併設する専門科の高校です。家庭学科が開発した商品を、商業学科の生徒はイベントなど地域に出かけて販売実習活動などを行っています。

今回知的財産権の学習をするにあたり、他の商品と差別化を図り、自分たちの学校が開発したオリジナル商品であると一目見てわかるような米南キャラクターをつくり、販売促進に役立てたいと考えました。

いまいわゆる「ゆるキャラブーム」で、全国に多数のご当地キャラクターが存在します。そこで生徒一人一人がオリジナルのキャラクターを考え、ネーミングや意匠などを商標として登録することを仮定して実習に取り組みました。そしてその後、弁理士の講演を実施して、自分たちの作品が実際どのような手間暇や費用をかけて知的財産として保護されるのかということ学ぶことができました。

今後は実際に米南キャラクターを決定し、熊本県のキャラクター「くまもん」や千葉県船橋市の非公認キャラクター「ふなっしー」に匹敵するような、地域から愛されるキャラクターに育てていきたいです。

学校番号	商 2 0	平成 25 年度 実践事例報告書様式 4	
学校名	<b>島根県立出雲商業高等学校</b>	担当教員/ 教官名	宇田 聡
学校情報	所在地：島根県出雲市大津町 2 5 2 5 番地 TEL：0853-21-0016、FAX：0853-21-0228、URL：http： <a href="http://uda-satoshi@edu.pref.shimane.jp">uda-satoshi@edu.pref.shimane.jp</a>		

ねらい (○印)	<input checked="" type="radio"/> a) 知財の重要性	<input type="radio"/> b) 法制度・出願	<input checked="" type="radio"/> c) 課題解決 (創造性開発・課題研究・商品開発等)
関連法 (○印)	<input checked="" type="radio"/> d) 地域との連携活動	<input type="radio"/> e) 人材育成 (学習意欲向上、意識変化等)	<input checked="" type="radio"/> f) 学校組織・運営体制
	<input type="radio"/> a) 特許・実用	<input type="radio"/> b) 意匠	<input checked="" type="radio"/> c) 商標
	<input type="radio"/> d) 著作権	<input type="radio"/> e) 種苗	<input type="radio"/> f) その他 ( )

タイトル 目的・目標要約	<b>ふるさとデザイン学習を通じた創造力・実践力・活用力の育成について</b>
目的・目標・背景	<p>(目的・目標)</p> <p>1) 学校全体 継続的に知財教育を実施できるよう、担当者が代わっても継続できる体制をつくる1年目とする。</p> <p>2) 課題研究 商業美術 (中心となる科目) 商業科と芸術科とのチームで指導し、企画やデザインを通して、課題把握、解決などの試行錯誤を繰り返すことにより、創造力や実践力を養うとともに、それらの工夫が知的財産権であることを理解させる。</p> <hr/> <p>(取組の背景)</p> <p>商業科と芸術科 (美術) とのTTによる課題研究商業美術の取り組みは3年目、本事業による取り組みとしては2年目になる。</p>
活動の経過 (知財との関連)	<p>○テーマの模索 ・発想法を取り入れた基礎演習 ・地域の産業を調べる ・まとめ</p> <p>○地域の産業・技術の体験をともなった学習 (5、6月)</p> <p>・木綿栽培 (5月～11月) ・木綿街道見学 ・出雲板締め技法と藍染体験</p> <p>・KBツツキ出雲工場見学 ・出雲ブランドに関する特別授業 (出雲市ブランド室 室長)</p> <p>○商品開発実習 (アイデアの創造学習) (7月～)</p> <p>○2年生マーケティング選択者夏休み課題指導 「基礎演習 デザインのプロセス」 (7月 夏休み課題として実施)</p> <p>○ネーミング、商標検索実習</p> <p>○1年生を対象とした知的財産権の基礎的な学習 (10月)</p> <p>○2年生マーケティング 知的財産権の基礎的な学習 (10月)</p> <p>○創造力・発想力の育成のための特別授業 黒木 大介 氏 (出雲科学館 講師) 奇二 正彦 氏 (生態計画研究所 主任研究員 立教大学講師)</p> <p>○商品開発・企画発表会</p> <p>○販売実習「出商デパート」 (11月30日、12月1日)</p> <p>・開発商品等の展示 ・開発商品「もりっころ」発表会・展示、 ・開発商品「ひまりっぷ」販売</p> <p>・「再仕込みしょうゆアイスサンド」試食アンケート ・全国高等学校開発商品 販売</p> <p>○活動のまとめと発表 (課題研究発表会) (1月)</p> <p>○高等学校問題解決型学習成果発表会 (2月) 県教委主催、会場 くにびきメッセ</p>
成果 ・まとめ ・気づき ・反省 ・課題	<p>「継続して指導できる体制づくり」という目標は、多くの先生方の協力を得て、すすめることができた。1年生は全員「ビジネス基礎」で、知的財産権・商標権に関する基礎的な内容を学習した。2年次に「マーケティング」で、知的財産について学習し、3年次の課題研究につなげていくようにいたいと考えている。</p> <p>生徒に考えさせ、アイデアを具体的な形にするにはかなり時間がかかる。時間には限りがあるので、教員が導いていく必要があるが、教員主導になっては意味がない。主体的に取り組み、創造的な能力や実践的な態度を伸ばしていくには、何を、どのように取り組んでいけばよいか、これからも考え、実践していきたいと考えている。</p>

「本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。」

課題研究 商業美術班の活動

○ テーマ設定

出雲といえば・・・  
出雲大社  
出雲そば  
神話  
ぜんざい

20人が同じ回答  
それ以上広がらない

出雲の  
産業について  
各自で調べました



出雲の産業についてまとめた この図から活動を始めた

○ 体験学習



木綿の栽培



木綿街道見学



KBツヅキ出雲工場見学

○ 島根の山を守る 間伐材を利用した商品開発



間伐材プランターで木綿街道に木綿を

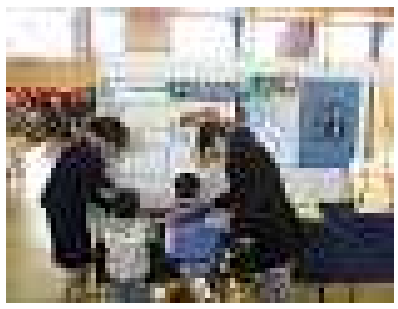


ウッドスタートの学習



もりっころ開発

○ 出商デパート



もりっころ



全国の高校開発商品の販売



縁札・神和てぬぐい販売



学校番号	商 2 1		
学校名	<b>岡山県立津山商業高等学校</b>	担当教員/ 教官名	笠木 秀樹
学校情報	所在地：岡山県津山市山北 5 3 1 TEL：0868-22-2421、FAX：0868-23-8492、URL：http://www.tusho.okayama-c.ed.jp/		

ねらい (○印)	a) 知財の重要性 b) 法制度・出願 <b>(c)</b> 課題解決 (創造性開発・課題研究・商品開発等) <b>(d)</b> 地域との連携活動 e) 人材育成 (学習意欲向上、意識変化等) f) 学校組織・運営体制
関連法 (○印)	a) 特許・実用 <b>(b)</b> 意匠 <b>(c)</b> 商標 d) 著作権 e) 種苗 f) その他 ( )

タイトル 目的・目標要約	<b>デザインを通じて、知的財産権を学ぶ</b>
目的・目標 ・背景	(目的・目標) 標準テキスト総合編を活用し、商品を取り扱う商業高校生に対し、地域での連携して、デザインを中心とした産業財産権についての理解を深め、商業デザインの創造力と産業財産権を守るための実践力を指導する。 ----- (取組の背景) 地域と連携して、商品開発から地域ブランド戦略など建国 1300 年の取り組みとタイアップし、美作国建国 1300 年記念プロジェクトとして、デザインで地域を元気にする。
活動の経過 (知財との関連)	美作国建国 1300 年記念プロジェクト 1) 企業とタイアップした新製品の開発 商品開発に関する知識を修得し実践能力を身につけるため、企業に商品化・販売していただける商品づくりを目標に、「弁当・惣菜・スイーツ」のテーマから 1 つ選び、自ら考案してきたアイデアを具現化し、10月26日から両備ストアで、「美作うまいもん弁当」として、300個限定発売、好評で11月にも再度追加発売された。 2) チャレンジ! 商店街ポスターデザイン 商店街と連携して意匠制度に関する実務能力の修得を目指すため、他校にも呼びかけ商店街を生徒が作成したポスターで飾った。 3) 美作の国つやま検定、テキストブックの作成 実務能力の修得を目指すため、写真等でデザイン化したテキストブックを編集、発刊した。
成果 ・まとめ ・気づき ・反省 ・課題	成 果 ・商品開発に取り組んだ成果として10月両備ストアで、「美作うまいもん弁当」として発売され、生徒のアイデアが認められた。 ・商店街にポスターを飾るとともに他校の参加もありコンクールとして開催でき、広く公開して、生徒のスキル向上や学習意欲の喚起を引出せた。 ・デザインを中心としたテキストが完成し、デザインの創造性が評価された。 気づき 企業へのプレゼンの大切さに気づき、商品化の難しさ、考え、工夫する大切さを学んだ。 課 題 地域の一大プロジェクトとタイアップして事業を進めてきたが、3事業の関連性をもっと教員での成果として共有化を図っていくべきだった。また、知財教育をとおして、地域と連携し、本校から、地域を元気にしていけるよう、今後も新たな学習環境の創造を考えていきたい。

「本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。」

□企業とタイアップした新製品の開発



生徒のアイデア  
が商品化  
両備ストアで発売  
された「美作うま  
いもん弁当」



□商店街ポスターデザイン



3校が参加したチャレン  
ジ「商店街ポスターデザ  
イン」事業の表彰式



□美作の国つやま検定、テキストブックの発刊



検定内容を写真等でデザインした  
テキストが完成。、デザインの創造  
性が評価された。



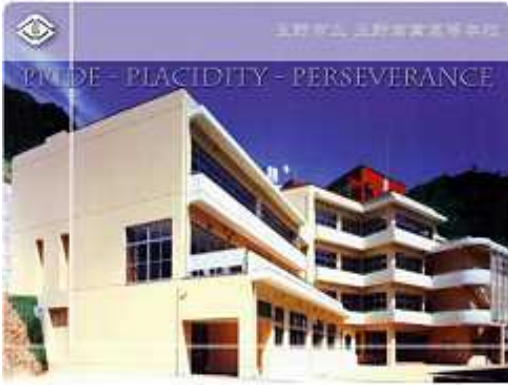
美作国キャラクター かたみくん

学校番号	商 2 2		
学校名	<b>玉野市立玉野商業高等学校</b>	担当教員/ 教官名	大島 博幸
学校情報	所在地：岡山県玉野市玉 6 丁目 1 番 1 号 TEL：0863-31-5341、FAX：0863-31-5342、URL：http://www.tamanosho.ed.jp		

ねらい (○印)	<input checked="" type="radio"/> a) 知財の重要性   b) 法制度・出願 <input checked="" type="radio"/> c) 課題解決 (創造性開発・課題研究・商品開発等)
関連法 (○印)	<input checked="" type="radio"/> d) 地域との連携活動   e) 人材育成 (学習意欲向上、意識変化等)   f) 学校組織・運営体制
	a) 特許・実用 <input checked="" type="radio"/> b) 意匠 <input checked="" type="radio"/> c) 商標   d) 著作権   e) 種苗   f) その他 (   )

タイトル 目的・目標要約	<b>地域特産物を活用した商品開発を中心としての知財学習</b>
目的・目標 ・背景	<p>(目的・目標)</p> <p>地域の特産物を生かした商品の企画をし、試作実習、業者との交渉、販売の活動をする。その実施過程の中で、知的財産権の概要・意義・重要性を理解させ、知的財産権への理解を深める。</p> <p>(取組の背景)</p> <p>本校のある玉野市は、基幹産業である造船事業が業績不振のために人口が 30 年以上も減少を続けている。そこで、地域特産物を使って商品開発を行い、地域活性化の一助となればと考えている。</p>
活動の経過 (知財との関連)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 産業財産権標準テキストを使つての講義</li> <li>・ 地域特産物についての解説</li> <li>・ 地域特産物を使つての商品試作</li> <li>・ 菓子業者に対して商品のプレゼンテーション</li> <li>・ 商品パッケージデザインの提案</li> <li>・ 商品の販売実習</li> <li>・ 小学生に対する知財教育</li> </ul>
成果 ・まとめ ・気づき ・反省 ・課題	<p>3 年生の課題研究の中の「商品開発」講座において取り組んだ。1 学期の当初は、「産業財産権標準テキスト」を使い、知的財産権についての基本的なことを教えた上で、地域の特産物について説明を行い、その特産物を利用しての商品試作を行い生徒が相互に評価をして今年度の商品を決定した。商品が決まると菓子業者に対してプレゼンテーションを行い改善点の指導を受け再度提案を行った。また、デザインについての学習をしてパッケージのデザインを行った。自分たちで商品を企画し、試作品を作り、その商品が具体化されて店頭に並び、自分たちが販売をするという機会が与えられたことは、彼らにとって非常に貴重な経験であり、成長させる良いきっかけになったと思う。それらの一連の活動を通じて知的財産権がどのように関わっているかということも理解できたと思う。</p> <p>また、小学生に対して知的財産権の教育を行うことにより、自分たちの知的財産権に対する知識をより一層深めることができたように思う。</p>

「本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。」



校舎写真



試作品作成風景



試作品A (カステラ)



試作品B (タルト)



業者へ提案



パッケージデザイン



小学生への指導



販売実習

学校番号	商 2 3		
学校名	<b>霧島市立国分中央高等学校</b>	担当教員/ 教官名	島田 聡吾
学校情報	所在地：鹿児島県霧島市国分中央 1 丁目 10 番 1 号 TEL：0995-46-1535、FAX：0995-46-1536、URL：http://www.mct.ne.jp/users/kokubu-chuo/		

ねらい (○印)	<input checked="" type="radio"/> a) 知財の重要性	<input type="radio"/> b) 法制度・出願	<input checked="" type="radio"/> c) 課題解決 (創造性開発・課題研究・商品開発等)
関連法 (○印)	<input checked="" type="radio"/> a) 特許・実用	<input type="radio"/> b) 意匠	<input checked="" type="radio"/> c) 商標 <input checked="" type="radio"/> d) 著作権 <input type="radio"/> e) 種苗 <input type="radio"/> f) その他 ( )
	<input checked="" type="radio"/> d) 地域との連携活動	<input checked="" type="radio"/> e) 人材育成 (学習意欲向上、意識変化等)	<input type="radio"/> f) 学校組織・運営体制

タイトル 目的・目標要約	<b>地域との連携を活かした知的財産学習の実践 ー商品開発の新しいモデル提案Ⅳー</b>
目的・目標・背景	(目的・目標) 知的財産教育を通して地域を活性化する。 (取組の背景) 知的産業財産テキストを活用する中で、必要な知的財産権を理解し、学校・学科の特徴を活かした人材を育成する。また、地域との連携も視野に入れた商品開発を行う。また、開発した商品については、地域ブランドとして商標登録を目指すなど販売促進 (活用力) を実験的に推進する。
活動の経過 (知財との関連)	<p>【4月】知的財産教育推進委員会、学科 (ビジネス情報科) で昨年度までの流れの確認と今年度の実施計画の検討 チャレンジショップ『国分中央海援隊』オリエンテーション (意義と手順の確認)</p> <p>【5月】実施計画 (商品開発・販売実習・ITショップ運営) についての検討・具体化 生産者農家研修の実施 (商品開発使用の材料の生産者による)</p> <p>【6月】販売実習、おもてなし実習スタート</p> <p>【7月】「知的財産教育LHR」の実施 (外部講師 宮城水産高校 油谷先生) 本校で知的財産ミニセミナーを開催 鹿児島県生徒商業研究発表大会で取組の成果を発表 (優秀賞受賞)</p> <p>【8月】中間報告会への参加 九州地区生徒商業研究発表大会 (県代表) で取組の成果を発表 (優秀賞受賞)</p> <p>【9月】地域連携商品開発の準備等、販売・おもてなし実習 (駅・イベント)</p> <p>【10・11月】開発商品の試作、販売・おもてなし実習 (駅・イベント・文化祭) 観光・特産品PRのぼり・のれん・台巻きのデザイン</p> <p>【12月】県外への発信 (広島での販売実習、通販による地元焼酎のセット販売企画) 職員研究の実施 (外部講師 第一工大工学部 古田教授)</p> <p>【1月】年次報告会への参加、生徒による校内研究発表会、商品開発校内コンテストの実施</p> <p>【2月】販売実習予定 (商店街祭り)、次年度に向けた活動総括</p>
成果 ・まとめ ・気づき ・反省 ・課題	霧島銘菓「ちゃ～まる」がヒットしたことにより商標を取得し、シリーズ商品としての商標の活用について学習してきた。その学習を通して 1 つの商標から広がる可能性を実感することができた。 おもてなし商品の開発により販売やおもてなし実習、ITショップでの通販運営が活発になり、地域で活躍する機会が増えた。PRのためのロゴやキャッチコピーのデザインを担当し、のぼりやポスター等に採用され、地域の観光を支えて盛り上げているという自信につながっている。今後の課題として、地域からの期待を継続して成果とするために、スマートフォン普及に伴う新規顧客開拓のための新たなアクション (アプリ開発) を試みる。

チャレンジショップ『国分中央海援隊』の活動を通して、知的財産を学ぶ生徒たちの様子

生産農家で研修



茶業青年の会の方と一緒に茶摘み  
(霧島茶は開発商品に使用されています)

試作を繰り返し!



地元特産品を使った商品を開発  
失敗は成功の元! 何度も試作を重ねます

パッケージデザイン



PCのイラストレーターを使用  
データも全て自分たちで作成  
校外での販売実習

イベントで霧島茶のおもてなし



商品販売と一緒に霧島茶のふるまい

ゆるキャラ「茶ノミコト」くん



観光PRも一緒に! 地域と共に!

校外での販売実習



実際に販売して市場調査をします

JR 駅でのおもてなし・豪華列車『ななつ星』の歓迎



観光客の方へ記念シールをデザインして配布  
のぼりやポスター等も自分たちでデザイン、リピーターを増やすぞ!



IT ショップ運営(楽天 IT 学校)



観光トラベルプラン、特産品のセット販売を企画  
まだ霧島へ来たことのない方へ WEB でアピール!

作品の紹介

商品パッケージ、観光PRののぼりやポスターに使用されたロゴ

茶ノミコトくんの妹の茶ノハナちゃんです 霧島市公認です♪



学校 HP から楽天 HP へリンク! 世界中から購入できます♪



楽天 HP より <http://eventrakuten.co.jp/area/kagoshima/collaboration/>

「本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。」

学校番号	商 2 4		
学校名	<b>出水市立出水商業高等学校</b>	担当教員/ 教官名	上久木田 健
学校情報	所在地：鹿児島県出水市明神町 2 0 0 TEL：0996-67-1069、FAX：0996-67-4345、URL：http://www12.synapse.ne.jp/izumisyo/		

ねらい (○印)	<input checked="" type="radio"/> a) 知財の重要性    b) 法制度・出願 <input checked="" type="radio"/> c) 課題解決 (創造性開発・課題研究・商品開発等) <input checked="" type="radio"/> d) 地域との連携活動 <input checked="" type="radio"/> e) 人材育成 (学習意欲向上、意識変化等)    f) 学校組織・運営体制
関連法 (○印)	a) 特許・実用 <input checked="" type="radio"/> b) 意匠 <input checked="" type="radio"/> c) 商標    d) 著作権    e) 種苗    f) その他 ( )

タイトル 目的・目標要約	<b>知的財産権の基礎を理解する</b>
目的・目標 ・背景	<p>(目的・目標) 今年度より商業科 1 年生全体で知的財産教育に取組む。学年進行で知的財産教育を進める。1 年生では基礎を身に付けることに重点を置く。</p> <p>(取組の背景) 新学習指導要領による新教育課程で商業科は商品の企画・開発・広告を学年進行で学ぶことになり、継続的に知的財産教育を導入することができるようになった。</p>
活動の経過 (知財との関連)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業「知的財産の基礎」・「意匠権」「商標権」の学習 標準テキストを用い「知的財産の基礎」・「意匠権」「商標権」についての授業を実施</li> <li>・ 国分中央高等学校知的財産教育合同 LHR 視察 先進的な取組みを行っている学校の取組みの状況を視察</li> <li>・ 鹿児島県高等学校生徒商業研究発表大会出場 生徒商業研究発表大会において「課題研究」の取組みを発表</li> <li>・ デザインパテントコンテスト出品 (4 作品を応募)</li> <li>・ 新商品開発 地元洋菓子店の協力を得て特産の紅甘夏を使用したマカロン「みかロン」を開発・販売</li> <li>・ 「タワー作り」に挑戦 発想法の習得の一環として「マーケティング」において「タワー作り」を体験</li> <li>・ 出水商業デパートにおける広告のあり方と新商品の販売 著作権・商標権を侵害しない広告作りの指導と開発した新商品「みかロン」を販売</li> <li>・ 鹿児島県専門高校知的財産教育担当者会の出席 加治木工業高等学校で行われた担当者会に参加</li> <li>・ 課題研究発表会 「課題研究」の 1 年間の活動を下級生に対して発表</li> <li>・ 報告書の作成 「出商チャレンジ」と題した 1 年間の活動報告書を作成</li> </ul>
成果 ・まとめ ・気づき ・反省 ・課題	<p>2 年目の参加で、昨年よりは順調に様々な取組みを実施できた。しかし、鹿児島県内の推進校に比べるとまだまだ取組み内容が充実しているとは言えないので、来年度はさらに内容の深化が必要だと考える。</p> <p>新商品「みかロン」を開発する過程で、商標について I P D L で検索を行うなど教諭が研修で学んだ内容を生徒に還元できたことなどは本事業に参加した成果だと思う。</p>

「本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。」



写真1：授業風景（知財の基礎）



写真2：授業風景（タワー作り）



写真3：出水商業デパート



写真4：出水商業デパート



写真6：南日本新聞（H25. 10. 10）



写真6：開発商品「みかロン」

出水産紅甘夏と米粉使用のマカロンを開発  
 昨年から地元の素材を活かしたマカロンを開発するために  
 試行錯誤を繰り返し、地元洋菓子店の協力を得て商品化に成  
 功。テレビや新聞でも取り上げられ生徒も自信をつけた。



学校番号	商 2 5		
学校名	<b>鹿児島県立川薩清修館高等学校</b>	担当教員/ 教官名	本田 親啓
学校情報	所在地：鹿児島県薩摩川内市入来町副田 5 9 6 1 TEL：0996-44-5020、FAX：0996-44-5022、 URL：http://www.edu.pref.kagoshima.jp/sh/sensatsu/top.html		

ねらい (○印)	a) 知財の重要性 b) 法制度・出願 c) 課題解決 (創造性開発・課題研究・商品開発等)
関連法 (○印)	d) 地域との連携活動 e) 人材育成 (学習意欲向上、意識変化等) f) 学校組織・運営体制
	a) 特許・実用 b) 意匠 c) 商標 d) 著作権 e) 種苗 f) その他 ( )

タイトル 目的・目標要約	<b>ビジネス教育における知的財産学習のあり方について</b>
目的・目標 ・背景	<p>(目的・目標) 学校全体として知財に関する知識と理解を深め、生徒が主体的に知財教育に関われる環境づくりをおこない、より実践的な取り組みを推進していく。</p> <p>(取組の背景) 昨年度からこの事業に参加し、地域の特産品であるきんかんを活用した商品の開発や販売という流れをとおして、商品開発に向けて生徒の意識を高めることができた。こうした成果をふまえ、さらに本校でも知財教育を深化させていく。</p>
活動の経過 (知財との関連)	<p>本年度は、①商品開発・②清修館フェスタでの販売活動・③本校マスコットキャラクターの活用の3点を中心に活動を展開した。</p> <p>① 商品開発 【対象：3年生課題研究・部活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地元についての調査と特産品を活かした商品アイディアの企画</li> <li>・企業の方を招いてのミーティングとパッケージデザインの検討 &lt;写真1&gt;</li> <li>・アイディアを出すための実践 (プレスト・KJ法) &lt;写真2&gt;</li> </ul> <p>② 清修館フェスタでの販売活動 【対象：全校生徒】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・名称やポスターデザインを生徒から公募 &lt;写真3&gt;</li> <li>・店舗設営やPOPデザイン、</li> <li>・幼稚園児による本校マスコットキャラクターのぬり絵 &lt;写真4&gt;</li> </ul> <p>③ 本校マスコットキャラクターの活用 【対象：全学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マスコットキャラクターを学校案内や職員用Tシャツ、中学生用のノベルティ、商品ラベル (お茶のパッケージデザイン) として活用 &lt;写真5&gt;</li> </ul>
成果 ・まとめ ・気づき ・反省 ・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度のように、新商品を開発し市販するまでには至らなかったが、企業の方からの講話をいただいたり、パッケージデザインの作成を行うなど実践的な取り組みが行うことができた。</li> <li>・昨年の経験から、授業の展開もスムーズにできるようになり、生徒が主体的に動くことができた。</li> <li>・県内外の研修会にも多くの職員が参加することができた。</li> <li>・学校の組織や取り組みが、教科に限定される部分があった。</li> </ul>

「本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。」

平成25年度 川薩清修館高等学校の取り組み（写真）

① 商品開発 【対象：3年生課題研究・部活動】



<写真1 企業の方とのパッケージ作成>

<写真2 ブレインストーミングやKJ法の実践>

② 清修館フェスタでの販売活動 【対象：全校生徒】



<写真3 左  
生徒作成のポスター>

<写真4 右  
本校マスコットキャラ  
ぬりえ>

③ 本校マスコットキャラクターの活用 【対象：全校生徒】



<図1 マスコットキャラ 『清龍くん』>

<写真5 キャラを使った学校案内や商品など>

学校番号	商 2 6		
学校名	<b>鹿児島県立明桜館高等学校</b>	担当教員/ 教官名	川畑 新吾
学校情報	所在地：〒891-1105 鹿児島県鹿児島郡山町 100 番地 TEL：099-298-4124、FAX：099-298-4125、URL：http://www.edu.pref.kagoshima.jp/sh/Meiokan/		

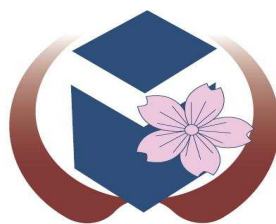
ねらい (○印)	(a) 知財の重要性 (b) 法制度・出願 (c) 課題解決 (創造性開発・課題研究・商品開発等)
関連法 (○印)	(d) 地域との連携活動 (e) 人材育成 (学習意欲向上、意識変化等) (f) 学校組織・運営体制
	(a) 特許・実用 (b) 意匠 (c) 商標 (d) 著作権 (e) 種苗 (f) その他 ( )

タイトル 目的・目標要約	<b>知的財産に関する理解と知識の深化と将来に向けた活用</b>
目的・目標・背景	<p>(目的・目標)</p> <p>開校 4 年目を迎える本校商業科は、産業財産権標準テキストなどを活用し、知的財産権の理解と知識を段階的に深めさせる事を目的とする。さらに、鹿児島県や本校が所在する地域のイメージアップ活動を実践することにより、地元にある魅力的な素材を用いて、高校生の視点から創造・活用・発信できる能力の育成を図る。</p> <p>(取組の背景)</p> <p>鹿児島県の新設校・商業科として新規事業に取り組みたい。</p>
活動の経過 (知財との関連)	<p>(活動経過)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 知財商標権・意匠権に関する実践。(商業科 3 年生 36 名オリジナル陶芸作品創作活動) ※陶芸家の先生が自らの作品を特許出願している。(大島細柄を焼き付け作品)</li> <li>2 鹿児島県生徒研究発表会出場・研修(他校の事例学習。本校商業科 1 年生全員参加研修)</li> <li>3 知的財産権に関する講演会。(ルイヴィトンジャパン 様)</li> <li>4 地域活性化策の検討。(新企画・新商品開発・キャラクター開発)</li> <li>5 学校紹介ポスター等の制作。(愛知サンフェアに出品)</li> </ol>
成果 ・まとめ ・気づき ・反省 ・課題	<p>(成果)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 1 年目は「勉強の年」と位置付けしている。とにかく商業科生徒全員が、知的財産に関する理解と知識、用語等の認知度をあげることができた。</li> <li>2 学校行事等の関係上、計画通り実行できない内容もあった。(校内別予算で実施予定)</li> <li>3 学校内の組織体制作りと定着が大変重要である。</li> <li>4 生徒が自主的に行動する環境があり、創造力を活かした自立型の人材育成ができています。</li> <li>5 高校卒業後の進路希望先に活かせる展開の構築。(就職・進学共に有利に。資格取得含む)</li> </ol>

「本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。」



【学校風景】



【校章・校歌本校職員制作】



【全国大会等出場！】



【陶芸創作活動風景】



【地域活性化策発表】



【おじゃこい隊デビュー！】

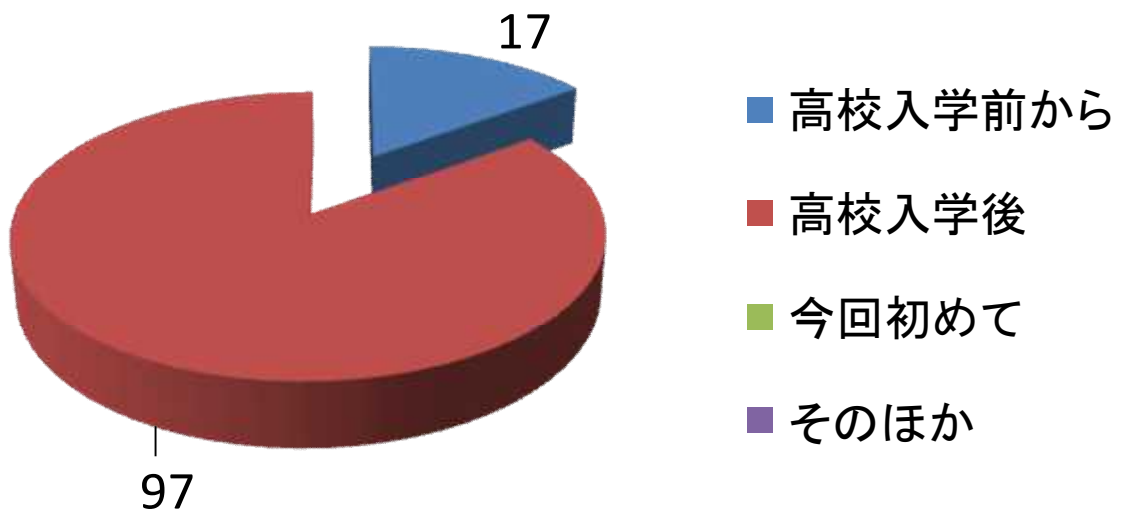


【ルイヴィトン 本物？ 偽物？】



【商業科1年生全員勉強！】

### 知的財産権について知っていましたか？(人)



学校番号	商 2 7	平成 25 年度 実践事例報告書様式 4	
学校名	<b>鹿児島県立川内商工高等学校</b>	担当教員/ 教官名	岡田 洋一郎
学校情報	所在地：鹿児島県薩摩川内市平佐町 1 8 3 5 番地 TEL：0996-25-2554 FAX：0996-25-1018 URL：http://www.edu.pref.kagoshima.jp/sh/Sendai-C-T/		

ねらい (○印)	<input checked="" type="radio"/> a) 知財の重要性   b) 法制度・出願 <input checked="" type="radio"/> c) 課題解決 (創造性開発・課題研究・商品開発等)
関連法 (○印)	a) 特許・実用   b) 意匠 <input checked="" type="radio"/> c) 商標   d) 著作権   e) 種苗   f) その他 (   )

タイトル 目的・目標要約	<b>知財学習推進による商品開発を通じた教育効果について</b>
目的・目標・背景	<p>(目的・目標) 地域企業との連携による商品開発に取り組むことで、商品の企画・開発から製造、販売に至るまでのビジネスの諸活動を通じて知的財産の重要性について正しく理解することを目的と・目標とする。また商品開発については、ペルソナ・マーケティングを取り入れ、新たなマーケティング手法から取り組んでいき、商品化へと繋げていくこととする。</p> <p>(取組の背景) 知的創造時代において、著作権等の知的財産の役割がますます重要になっている。新学習指導要領においても、多くの科目で取り扱われている。本校での取り組みは、科目「経済活動と法」のなかで留まっており、「知的創造力の育成」や「知的財産のモラル・マインド」といった知財教育の核となる部分については触れていなかった。そこで、学習の場を地域に広げ、地域企業と連携しながら商品開発に取り組んでいく中で、効果的にまた継続的に知的財産について学習できる手段を模索した。</p>
活動の経過 (知財との関連)	<p><b>『課題研究』調査研究班 3年(6名)</b></p> <p>○産業財産権標準テキスト(総合編)テキスト活用による知的財産権の学習 ○商品開発への取り組み</p> <p>(1)市場調査及び地域企業調べ(インターネット活用。企業ホームページ等で企業理念・経営者の思いに対して共感できる企業を選定)→米粉を扱う企業 (2)消費者像の決定(ペルソナ・マーケティング活用。特定の消費者=ペルソナを質的・量的情報に基づいてストーリー仕立てで決定)→小麦粉アレルギーに悩んでいる女性をターゲット像 (3)企業・工場見学   (4)商品企画書の作成   (5)試作品づくり(アンケート等の実施)</p> <p>○鹿児島県生徒商業研究発表大会参加   ○校内課題研究発表会(2・3年生に対して)</p> <p><b>『経済活動と法』3年(75名)</b></p> <p>LVJグループ株式会社による講演(講師：知的財産部 藤原宏成様) 2h 題名：「知的財産権とブランド価値」 内容：(1)知的財産権について (2)ニセモノの実態 (3)ブランド価値 (4)皆さんへのお願い</p> <p><b>指導者</b></p> <p>地域ブロック(九州地区)における職員研修(鹿児島県伊佐農林高校) 鹿児島県短期研修「産業教育担当者講座 推進しよう知的財産教育 産業教育充実のために」</p>
成果 ・まとめ ・気づき ・反省 ・課題	<p>活動としては、①商品開発 ②外部講師による講演のみの取り組みで終始してしまっ。反省・課題としては、指導する私たちが知的財産についての認識・理解が低く、指導方法の引き出しが乏しいことを改めて痛感した。その分、地域企業や外部講師の協力を得ながら、1年目の活動を終えることができた。知的創造力の育成では、多くの発想法を学ぶことができた。また、知的財産のモラル・マインドについては、消費者モラルなど多面的に知的財産を考えることができたと思う。そして、活動の場として教室外での活動が多く、学校から地域へと生徒の学ぶ場が広がったことが非常に意義のあることだと感じた。</p>

「本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。」



写真1 工場見学

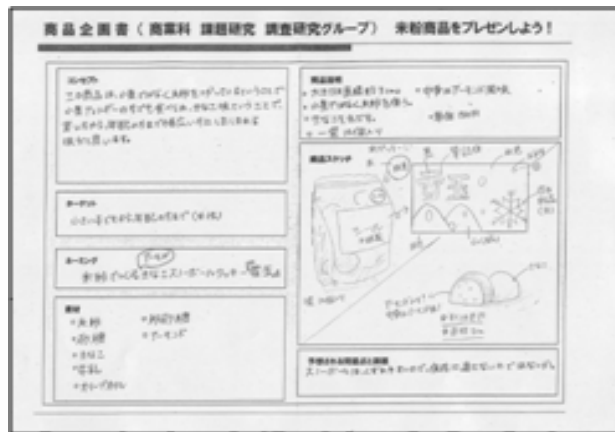


写真2 商品企画書



写真3 実習風景 (試作品づくり) ①



写真4 実習風景 (試作品づくり) ②



写真5 知財講演 (LVJグループ) ①



写真6 知財講演 (LVJグループ) ②

学校番号	商 2 8		
学校名	<b>指宿市立指宿商業高等学校</b>	担当教員/ 教官名	江口 和喜代
学校情報	所在地：鹿児島県指宿市岩本 2747 番地 TEL：0993-25-2204、FAX：0993-25-4527、URL：http://www12.synapse.ne.jp/ibusyo		

ねらい (○印)	<input checked="" type="radio"/> a) 知財の重要性 <input type="radio"/> b) 法制度・出願 <input checked="" type="radio"/> c) 課題解決 (創造性開発・課題研究・商品開発等)
関連法 (○印)	<input checked="" type="radio"/> d) 地域との連携活動 <input checked="" type="radio"/> e) 人材育成 (学習意欲向上、意識変化等) <input type="radio"/> f) 学校組織・運営体制
	<input type="radio"/> a) 特許・実用 <input type="radio"/> b) 意匠 <input checked="" type="radio"/> c) 商標 <input checked="" type="radio"/> d) 著作権 <input type="radio"/> e) 種苗 <input type="radio"/> f) その他 ( )

タイトル 目的・目標要約	<b>ビジネス教育における知的財産権学習の実践</b>
目的・目標・背景	<p>(目的・目標) ビジネスの諸活動の中で、商業高校でこれまで学習してきた内容を実践、活用していくために必要な産業財産権をはじめ知的財産権を正しく理解した人材の育成</p> <p>(取組の背景) 本校では、高校生にできる地元「指宿」の活性化をコンセプトに、オリジナル商品の開発や「指商デパート」などのビジネス教育に取り組んでいる。これらの活動を推進していくためには知的財産教育が必要不可欠である。</p>
活動の経過 (知財との関連)	<p>知的財産権に関する概要説明・産業財産権について概要説明</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・知財教育授業</li> <li>・産業財産権標準テキスト（総合編）による授業、テストの実施</li> </ul> <p>株式会社指商 事業部企画</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「地域活性化アイデアコンテスト」企画・開発</li> <li>・各クラスで企画発表会、生徒の互選により代表企画の決定</li> <li>・クラス代表プレゼン会を関係協力企業へ向けて実施</li> <li>・鹿児島県内商業・農業高校生によるワゴン販売活動・指宿観光PR活動</li> <li>・勝武士ラーメンポスター・キャラクターデザイン制作説明会・プレゼン会を実施</li> </ul> <p>指商デパート向け商品企画</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「指商デパート」に向けて、オリジナル商品の企画・開発</li> <li>・オリジナル商品の企画、クラス発表会、代表企画の決定、協力企業へのプレゼン会</li> <li>・オリジナル商品開発に向けての企業との商談会・試作品完成</li> <li>・オリジナル商品販売確認会（ファミリーマートフォーラム）へ参加 商品名：芋Deチーズケーキ、芋Deおむすび</li> <li>・指商デパート販売商品発表会でプレゼン、指商デパートでの販売</li> <li>・コンビニチェーン店頭での販売開始キャンペーン</li> </ul> <p>フリーマガジン</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・フリーマガジン作成についての説明会・講義</li> <li>・各班ごとに分かれての取材活動（取材先・広告先）</li> <li>・フリーマガジン「IBUSHOW Vol.3」完成 約1万部発行</li> </ul> <p>ICP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ICP（指宿茶いっぺプロジェクト）茶いっぺ活動の実施</li> <li>・鹿児島山形屋「鹿児島発味のインターハイ」に参加</li> <li>・おもてなし商品開発①</li> </ul>

	<p>指宿産のそらまめを使った、スイーツの企画「そら豆かん」を完成 パッケージデザインの作成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・おもてなし商品開発② 指宿産のかぼちゃを使ったパンの企画「パンプキング」4種類を完成 マスコットキャラクターの作成</li> <li>・「きら☆旅 KIRA TABI」によるICP活動・販売実習</li> <li>・「鉄道の日 2013」鹿児島中央駅 100周年記念イベントに参加</li> <li>・「そうしん まるごと食・観商談会 in 指宿市」に参加</li> </ul> <p><b>研究発表グループ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業部企画や商品開発等を分析、報告書作成、発表をプレゼン</li> </ul>
<p><b>成果</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まとめ</li> <li>・気づき</li> <li>・反省</li> <li>・課題</li> </ul>	<p>本校では、商業教育の各科目の中で知財教育を実践している。「地域活性化」をキーワードに、本校独自の特色ある取り組みを展開している。今年度は、「株式会社指商」の設立2年目にあたり、これまでの本校での活動をさらに発展させた取り組みを行った。「地域活性化アイデアコンテスト」、鹿児島中央駅・鹿児島山形屋での販売実習、「勝武士ラーメン」ポスター・キャラクターデザイン制作や商品開発・パッケージデザイン・マスコットキャラクター作成などに関する知財教育も各科目を指導する担当者が積極的に取り組まれている。指宿市・指宿市観光協会・地元企業などと連携することで横への広がりも出てきており、地域活性化に貢献できたという手応えを感じている。また、フリーマガジン「IBUSHOW」は第3弾を発行することができた。昨年よりもさらに生徒の手による、取材から記事の編集・広告募集までを行い、成果を上げることができた。昨年以上に知財教育に商業科職員が生徒と供に取り組み、知財教育の大切さが浸透しており、理解も深まっている。</p>

「本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。」



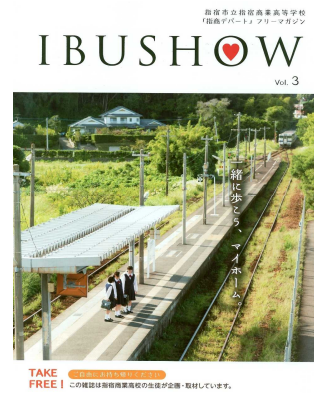
販売活動写真



開発商品写真



キャラクターデザイン・パッケージデザイン



フリーマガジン「IBUSHOW vol. 3」